

学習計画（シラバス）の目的および活用法

1. 作成・発行の目的

将来の大きな夢や進路目標を抱いて川内高校に入学してきた諸君の、今年度の新たな学校生活がスタートしました。今まで培ってきたものを糧とした上で、過去の自分自身の進路意識や学習に対する取組を振り返り、新年度における目標と努力すべきことを再度真剣に考えて、決意新たに学習活動に取り組んで欲しいものです。

さて、3年間の高校生活を通して学習内容を本当に理解し身につけるためには、自主的な姿勢、「自ら学ぶ」姿勢が必要不可欠です。そのためにも、まず将来を見通した人生設計をし、具現化させるために何をすべきかを冷静に考えてみましょう。自ずと毎日の学習にも意義を見いだすことができ、自発的な取組にも繋がると思います。大切なことは、何事にも「前向き」であること、そして「継続する」ことです。以上のことを常に心に留めておけば、悩み・苦しみながらも、級友たちと共に貴重な高校生活を送ることができるはずです。そして高校3年間の最後の集大成とも言うべき“受験”という厳しい現実も、この心構えを実践することで、必ずや乗り越えられると思います。

この学習計画（シラバス）は、川内高校での学習内容を確認してもらうと同時に、今年度1年間を見通した学習活動計画をまとめたものです。以下の点に留意しながら、「自ら学ぶ」姿勢をもって、この1年を充実したものにして、自分の夢を実現して欲しいと心から期待します。

2. 内容・構成

- (1) 各学年の今年度分のシラバスが掲載されています。
- (2) 川内高校における3年間の学習の流れを見通すことができます。
- (3) 今年度の学習計画を、諸考査計画を含めて、1年間を見通して示してあります。
- (4) 各教科・科目の学習方法及び学習内容・到達目標等が詳細に記されており、自己評価もできます。

3. 効果的な活用法

この「学習計画（シラバス）」を活用して、自分の学習習慣を確立し、学力を向上させるため、次の点に留意しよう。

(1) 高校における学習の基本的な心構え

学習の基本的な心構えを認識し、今年1年間の学習活動につなげよう。

(2) 各教科・科目の学習計画・内容等

留意事項は以下の通り。

・[年間学習計画]

今年1年間の学習内容と流れをつかみ、学習や進路に対する自身の目標をしっかり意識しよう。

・[学習内容]

各教科・科目における具体的な学習内容を示してある。教科書を中心にしながら、副教材やプリントなど授業で学習する内容を事前に知ること、予習に役立てることができる。

・[学習方法・心構え]

学習を効果的に進めるためのポイント。我流の学習ではなく、その教科・科目の効果的な学習方法を身につけること。真摯な態度、地道な努力を継続することが、学力向上に繋がる。

・[到達目標]

必ず理解しなければならない具体的な事項を示してある。具体的な目標を意識して学習に取り組むことは、予習や復習の必要性を自覚することにもなり、学習内容を理解するために重要なことである。定期考査をはじめ、諸考査やテストは、この目標への到達度を測るために行われるのはいうまでもない。

・[自己評価]

上記の到達目標に対して、理解できたかどうか、具体的な項目について自分で評価してみよう。自分の学習状況を自己点検することは、考査前や模試の直前チェックにも役立つなど、向上心を一層高揚して学習意欲を高めることになる。

<授業が基本>

高校での勉強の中心は何と言っても授業である。毎日の授業を大切にし、教科書を完全にマスターすれば目的は必ずや達成される。授業をおろそかにして、我流の勉強をすることは時間の浪費でしかない。常に謙虚な気持ちを持ち、素直に先生方の指導に従おう。

(1) 高校の学習は予習が必須条件

小中学校時代から聞き慣れた「予習」の意義を再度考えてみよう。人は長時間の緊張にはなかなか耐えられないものである。本校では1日6～7時間の授業がある。予習の段階で、理解できる箇所と理解できない箇所、及び疑問点を明確にした上で授業に臨む習慣を身につけること。そうすることが結果的に時間の節約になると同時に、授業にも集中できる。教科書ガイドや友人のノートを写すといった楽な予習の愚かさを、理解できていない生徒はいないはずである。

「自力で問題を解決する力」は、日々の予習の習慣を通して身につけることができるものであり、一朝一夕にして成しうるものではない。予習の段階での疑問点をそのままにして授業に臨むのではなく、自分なりに精一杯考えること。現在の高校生に一番求められている部分である。

(2) 授業の受け方

上記の予習ができていれば、授業中は「どうしてだろう」という問題解決への積極的な姿勢で緊張感が張りつめているはずである。予習でも授業でも、理解できなかった箇所は教科担任に質問し、必ずその日のうちに解決するように努めよう。

(3) 復習について

確実な学力を身につけるための要件として「予習」・「授業」と同様に重要なのが「復習」である。

①暗記を必要としない学問は一つとしてない。とにかく、繰り返し覚えることである。

②「予習」・「授業」で理解したことが本当に身に付いているかどうか確認するために「練習問題」に当たって理解を深め、応用力の養成に努めよう。こうした自発的な学習が最も望ましい学習であり、真の学力を身につける一番の近道である。地道な努力無くして栄光はあり得ない。

<読書力と文章力の養成について>

教室で学ぶ知識事項は反復学習で確実に身につけなければならないが、それと同じくらい大切なことに「読書によって自分独自の教養世界」をつくることが挙げられる。大学入試では論文試験が主流になりつつある。様々なことについての知識を持つと同時に、自分なりの考えを表現する力・相手に伝える力が求められている。こうした力を身につけるために、本や新聞を読む時間を確保し、文章の要旨や自分なりの考えをまとめる習慣を身につけることが大切である。

新学習指導要領に基づく学習評価について

本校で目指す教育を明示した「鹿児島県立川内高等学校グランドデザイン」の理念に沿い、新学習要領に基づく学習評価として以下のような観点別評価を行います。

【観点別評価について】

各教科の教育活動については、シラバスにより大まかな流れ、各単元の学習計画により詳細を説明することになります。

(1) 観点別評価の目的

- 1 学習の進歩の状況や良い点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。
- 2 各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握するために、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、場面や方法を工夫しながら学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上と資質・能力の育成を図る。

(2) 学習評価の方法

- ① 「知識・技能」②「思考・判断・表現」③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点別に評価基準を定め、いずれも目標に準拠して、「A（十分満足できる）」、「B（概ね満足できる）」、「C（努力を要する）」の三段階で評価します。

観 点	評価のポイント	評価の材料
「知識・技能」	・各教科・科目における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況。 ・既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。	定期考査・小テスト・振り返りシート等
「思考・判断・表現」	・各教科・科目の知識及び技能を活用して、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等
「主体的に取り組む態度」	・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等

【評定について】

評定については、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき定めた、当該教科・科目の目標や内容に照らして、その実現状況を総括的に次のように区分して評価します。

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの……………	5
「十分満足できる」状況と判断されるもの……………	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………	3
「努力を要する」状況と判断されるもの……………	2
「努力を要すると判断されるもののうち、より努力が必要」な状況と判断されるもの……	1



鹿児島県立川内高等学校グランドデザイン

教育目標

憲法及び教育基本法の精神を基に、「自律・敬愛・剛健」の校訓を人格形成の基本理念として、文武両道への取組を通して「知・徳・体」の調和がとれた、心豊かで、たくましく、国際的視野に立って主体的・創造的に生きる人間の育成を図る。

「確かな学力」「豊かな人間性」「変化の激しい未来を生きる力」の育成を目指す。

校訓

自律
敬愛
剛健

目指す生徒像

高い目標を掲げ、自らを律し、主体的に考え行動できる生徒
人間性豊かで、積極的に他者と協働し、社会貢献をしようとする生徒
気力・体力・活力に満ち、粘り強く自己実現を目指す生徒

育てたい資質・能力

自律

探究力（追求力）

思考力

実行力

敬愛

自己肯定感

多様な個性を尊重する態度

社会貢献

剛健

健康増進力

コミュニケーション力

俯瞰力

学校の取組

- 人権教育をすべての教育の基本とした「生きる力」を育成する教育活動の展開
- 学力の向上と進路実現のための、学びの先を見すえた指導の展開
- 主体的・対話的で深い学びの授業実践と社会の変化に対応した課題探究学習の推進
- 全職員の共通実践に基づいた生徒支援（心の教育、あいさつ・清掃・マナー指導等）の充実
- 心身の健全な育成のための体育指導、保健・安全指導の充実
- 部活動・生徒会活動・学校行事・ボランティア等への積極的取組の推奨、及び環境の整備
- ICT環境を含めた施設設備の整備、及びICT活用の推進
- 学校評価等を参考にした適切なカリキュラム・マネジメントの推進
- 地域・家庭等との連携の強化、及びニーズに対応した教育活動の実践
- 国際性や異文化理解力を育てるための国際交流プログラムの推進
- 魅力ある学校づくりやPR活動の推進及び中高連携の促進

生徒職員の重点取組
「発刺とした元氣
良い挨拶の励行」

地域・家庭等との連携

同窓会・PTAとの連携、自治体等からの支援、国際交流プログラム、大学からの出前授業、各中学校での里帰り報告、講演・講話、薩摩川内市みらいアドバイザー事業、地域行事への参加、川内大綱引綱練り等の各種ボランティア活動、地域イベントへの協力・参加、HPやブログによる情報発信 など

可愛地区コミュニティ
小中高共通実践事項
「あいさつ運動の実施」

【第3学年 現代文B 学習計画】

教科	国語	科目	現代文	文3（理2）単位	3年生
【学習内容・到達目標】 (1) 近代以降の現代日本語で書かれた文章を、意欲と興味をもって読めるようになる。 (2) より深いものの見方、感じ方、考え方を追求する。 (3) 表現することの楽しさ、意義に触れ、積極的に表現する姿勢を確立する。 (4) 好きな本や読み返したい本に巡り合うような、多くの読書の機会をもつ。 (5) 授業を通して、情報の的確なとらえ方と選択の方法を身に付ける。					
【使用教材】 〈教科書〉精選 現代文B（東京書籍） 〈副教材〉核心漢字 2500＋語彙 1000（尚文出版） 現代文問題集（各種）					

1 学習の基本的な心構え

私たちはいつもことばでものごとを考える。ことばを使わずに思考することはできない。だから、ことばを安易に考えている柔軟な思考は養えないし、学力の向上も望めないだろう。日常生活の中で『ことば』を大切にする姿勢を心がけるとともに、幅広い読書に力を注ぐべきである。

また、国語の授業が、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの四つの言語能力を高めて、読解力や思考力、表現力を培う貴重な時間であることを再認識しよう。

2 学習の方法

2年次以降、国語の科目は「国語総合」から「現代文」と「古典」に分かれ、内容も深く、高度なものへと進んできた。社会人として生活するのに必要な言語能力を身につけることはもちろん、まずは共通テストに対応できる基盤を作ることが第一目標となる。そのために、平日1時間、土日で2～3時間の学習時間が必要となる。

〔現代文について〕

扱う内容は主に評論と小説であるが、2年次の「現代文」に比べ、内容が高度である。高度な内容を読み取るに足る理解力を伸ばしていくためには、かねてから読書量を増やし、現代文に対して積極的に興味・関心をもつことが必要である。また、時事問題にも幅広く興味を示し、新聞等を読む習慣を付けるとともに、自分の意見を持ち、それを文章にまとめる練習も必要である。

＜予習＞

- ①教科書をしっかり読む。
- ②難解な語句や未知の語句は、その読み方や意味、用法について確実に調べておく。
- ③段落に分けて文章展開図を考えたり、100～200字程度に要旨をまとめてみる。
- ④評論などの文章については、問題意識を持ち、論理的に思考する立場で論点をおさえておく。
- ⑤文学的文章については、人物像や心理描写を自分なりに読み取り、まとめておく。
- ⑥授業に備えて、自らの疑問点を明らかにしておく。

＜復習＞

- ①授業の流れを思い出しながら授業中に生じた疑問点を確認し解決する。
- ②授業中に初めて学んだ事項や語句などは、その日のうちに振り返り、習熟しておく。
- ③評論や小説については、関連した作品の読書など発展的な学習を積極的に行う。

【第3学年 現代文B 年間学習計画表】※文系はこれに演習1単位を加える。

学期	月	授業・学習内容	時間	学習目標・到達目標 (到達度チェック項目)	目標達成の目安	学習到達度			
						A	B	C	D
2	4	評論 『文学の未来』 小野正嗣	8	①抽象度の高い評論を読み、提示された結論がどのような論証を経て導かれているか構成を読み取る。 ②作品とはテキストと読者との間にそのつど結ばれる関係であることを理解し、考えを深める。	①具体的事例と一般化、目的と実現のための手段、同型の並列など、五つの意味段落の関係や構成について理解している。 ②文学作品とテキスト・読者との関係や、より豊かな読書体験の提言について筆者の考えを読み取り、自分の意見を持てている。				
	5	小説 『檸檬』 梶井基次郎	6	①主人公の心理描写に気をつけながら、場面や状況を読み取り、主題について考える。 ②文体や構成などの表現上の特色をとらえる。	①「私」の不安感や惹きつけられるものの特徴、檸檬による不安の解消とカタルシスなど、「私」の心理心情を理解している。 ②イメージと心情が融合した豊かな文章の魅力を実感できている。				
	6	評論 『環境問題と 孤立した個人』 河野哲也	8	①取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。 ②筆者の考える環境問題について読み取り、改善策を含めて自分の考えを発展させる。	①「近代科学の自然観」「二元論的認識論」「近代科学における自然観と同型な個人概念」についての筆者の考えを理解している。 ②現代社会における環境問題について、筆者の考えを踏まえた上で、自分の意見を持てている。				
	7	言語活動編 (図表から情報を読み取って論じる)	3	①複数の資料や図表の情報の読み取り方を学習し、的確に表現できるようにする。	①複数の資料や図表の情報の読み取り方を理解し、表現内容・方法への理解を深めている。				
	9	評論 『社会の壊れるとき』 鷲田清一	8	①事例と引用を用いた論の展開を確かめながら主張を捉え、知性の意義について自分の考えを深める。 ②語句の意味、用法を理解するとともに、「知性的」であることが求められる現代の社会問題について考えを深める。	①具体的な事例と抽象的な言葉の関わりを読み取り、文化の崩壊と「近代性」の関連性を理解している。 ②「知性の意義」についての筆者の考えを踏まえた上で、興味関心と自分の意見を持てている。				
	10	評論 『他者の声 実在の声』 野矢茂樹	8	①抽象度の高い評論文を読み、筆者の提示するテーマや問題点について理解する。 ②問題に対する筆者の考えを理解する。 ③全体の構成と筆者の主張を読み取る。	①「他我問題」と「外界問題」について、その内容を理解している。 ①「言語の内」と「言語の外」、「他者性の問題」と「実在性の問題」という対比について理解している。 ③前半と後半の関係を理解している。筆者の主張を理解できている。				
	11	問題演習		共通テスト・各種入試に向けて安定した力をつける。	多くのジャンルや形式の問題に前向きに取り組み、継続的に良好な結果を出せた。				
		学習到達度※生徒自己評価の例：○印を記入							
		A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった							

【第3学年 古典 年間学習計画】

教科	国語	科目	古 典 B	文4（理3）単位	3年生
【学習内容・到達目標】 (1) 古典を読む能力を高める。 (2) 古典を通して、ものの見方、感じ方、考え方を深め様々な価値観を知る。 (3) 古典に親しむことによって、文化と伝統に対する理解を深める。					
【使用教材】 〈教科書〉精選 古典 B 改訂版 （大修館書店） 〈副教材〉古典文法 古文単語 漢文句形 古文問題集 漢文問題集					

1 学習の基本的な心構え

私達はいつもことばでものごとを考える。ことばを使わずに思考することはできない。だから、ことばを安易に考えている柔軟な思考は養えないし、学力の向上も望めないだろう。日常生活の中で『ことば』を大切にする姿勢を心がけるとともに、幅広い読書に力を注ぐべきである。

また、国語の授業が、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの四つの言語能力を高めて、読解力や思考力、表現力を培う貴重な時間であることを再認識しよう。

2 学習の方法

基本的な学習については、本シラバスを参考にし、2年次と同様に、予習・授業・復習のサイクルを継続し、根気強く取り組むこと。

〈予習〉繰り返しの音読、本文の書写、難解な語や文法事項を調べたうえでの書き込み、口語訳。

〈授業〉色分け、補足事項のメモなど、自分なりのノート作りを心がける。先生の説明を聞きながら、予習内容の確認をする。場面状況や人物の心情など、内容理解をし、ポイントを確認する。

〈復習〉疑問点が残っていないか確認する。適切な口語訳が出来ているか確認し、訂正する。

また、演習問題への取り組みについて、以下に1つのモデルを示す。

- ①意味の分からない部分をチェックしながら、辞書を用いずに読みすすめ、設問に解答する。
- ②辞書、文法書などを用いて、意味の分からなかった部分を確認し、覚えておくべき言語事項、古典常識を確実に身に付ける。出典についても、作者、成立時代、ジャンルについて分からなかった場合は、国語便覧等を利用して確認をする。口語訳や説明の過程で意味の分からない現代語の単語があれば、国語辞典を引いて自分の使える語彙に取り込む。
- ③物語については、あらすじ、登場人物の心情、評論については筆者の考え方、主張など、文章全体の趣旨を捉える。
- ④解答確認の際には必ず本文にあたり、解説と照らし合わせる。正誤の確認だけで終わらせない。
- ⑤改めて、覚えておくべき事項については、整理をする。

古典で扱われる話題やジャンルは多岐に渡るため、多くの演習問題に当たる必要がある。偏りのない取り組みとともに、休日課題などの遅延の無い取り組みが求められる。また、演習は予習時に行う単元毎の設問解答、休日課題、対外模試など授業以外の時間を利用して行われることが多いので、自主的、積極的に取り組む必要がある。取り組んだものについては、必ず訂正し着実に実力を養おう。さらに、文章の読解をする際はさまざまなものの見方、考え方が要求される。他の教科等で身に付けたものの見方、考え方も活用しよう。

【第3学年 古典 年間学習計画表】

期	月	単元名	時	単元における学習目標	学習達成の目安	自己評価			
						A	B	C	D
I	4	古文（物語） 『源氏物語』 「桐壺」「若紫」	8	登場人物の心情を状況や行動に即して読み取り、『源氏物語』への理解を深め、古典作品への興味関心を高める	古文単語や敬語の知識を深め、場面の理解や登場人物の心情を読み取ることができた。				
	5	漢文（逸話と寓話） 『帰田録』 「売油翁」	4	発言や行為の内容を正確に読み取り、機知に富むやりとりや論理的表現のおもしろさを理解する。ものの見方・考え方を深める契機とする。	①内容を正確につかみ、登場人物の心情を理解できた。 ②基本的な句法や語法を理解できた。				
	6	古文（日記） 『蜻蛉日記』 「町の小路の女」 『和泉式部日記』 「薫る香に」	9	日記文学の文学的特徴や文学史的位置を知る。時代背景や筆者の境遇を踏まえながら、筆者の心情を読み取り、繊細な自己省察の文章表現の妙を味わう。	①筆者の対応や心情を読み取るとともに、日記文学の特徴を理解できた。 ②和歌の内容を的確に理解し、内容読解に繋げることができた。				
	7	漢文（史伝） 『史記』（荆軻） 「風蕭蕭として水寒し」 「図窮まりて匕首見る」	8	長文の漢文を読み慣れ、読解・鑑賞する力を養う。話の展開を読み取ると共に、古代中国の歴史がもつ面白さや登場人物の魅力を読み味わう。	①句法に注意しながら、丁寧に現代語訳し、内容を正確に把握することができた。 ②物語の展開を正確に把握し、表現や構成の巧みさを鑑賞できる能力を身につけた。				
	8	古文（物語） 『源氏物語』 「葵」「須磨」	12	登場人物の心情を状況や行動に即して読み取り、『源氏物語』への理解をさらに深め、古典作品への興味関心を高める。	①物語の内容を理解するとともに、『源氏物語』の世界をより深く知ることができた。 ②和歌や人物描写などを通して登場人物の心情を読み取ることができた。 ③基本的な敬語法を理解できた。				
	II	9	漢文（思想 諸子百家） 『老子』「小国寡民」 『莊子』「曳尾於塗中」 『韓非子』「侵官之害」	9	諸子百家のうち、道家と法家の思想について、儒家との違いに注意しながらそれぞれの内容や特徴を学ぶ。諸子百家の思想を学ぶ現代的意義について考える。	①重要語や句法に注意したうえで、現代語訳ができています。 ②話の展開を正確に読み取り、言わんとしている思想的内容を理解できた。 ③各思想の特徴を対比的につかむことができた。			
10		古文（評論） 『古今和歌集仮名序』 「やまと歌」 『無名抄』 「おもて歌」	6	それぞれの評論の論理性について、表現を確認しながら読み取る。和歌に対する日本人の思いや文化的伝統について考える。	①それぞれの評論について、筆者が和歌をどのようにとらえているかを読み取ることができた。 ②日本人にとっての和歌の伝統について理解を深めることができた。				
11		漢文（長恨歌と日本の文学） 「長恨歌」（白居易）	6	日本文学に大きな影響を与えた白居易の「長恨歌」を学び、『源氏物語』『枕草子』にどのように影響を与えたかについて考察する。	①「長恨歌」の内容と構成について理解し、玄宗皇帝と楊貴妃の心情を読み取っている。 ②中国文学が日本文学に与えた影響について自ら考えている。				
12		問題演習		①共通テストに向けて安定した力をつける。 ②記述式問題に対応する応用力をつける。	①様々なジャンルの古文・漢文の問題を意欲的に演習し、古文・漢文の文章内容を正確に読み取り、論理的に思考して解答することができた。 ②既習の古文単語や古典文法・漢文句法に繰り返し習熟し、身につけることができた。				
学習到達度 ※生徒自己評価の例：○印を記入									
A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった									

【3年世界史B 年間学習計画】

3 年 世界史 B	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
	1 学期				夏季休業	2 学期				冬季休業	3 学期	
学校行事					夏季課外					冬季課外		
テスト計画 (対外模試)	実力考查①	実力考查②	期末考查		(夏季課題)	実力考查③	中間考查	実力考查④				
学習内容 プログラム	第11章 欧米における近代国民国家の発展 第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 第14章 二つの世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の独立					第15章 冷戦と第三世界の独立 第16章 現代の世界		共通テスト対策		共通テスト対策 2 次・私大対策		
目標	(1) 世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連付けながら理解し，文化の多様性や現代世界の特質を広い視野から考察することにより，歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる自覚と資質を身につける。 (2) 史実に基づき，過去から現在までの事項を，歴史発展の流れの中に位置づけて学習する。全体の流れを見るようにする。 (3) 「新しい時代」を生きていくために，数十年，数百年と「過去」をさらに遡り，より長いスパンで「世界の今」を捉え直せるようにする。歴史と一緒に現代についても学ぶ。 (4) 文章資料を読解したり，複数の資料を関連づけて考察したり，歴史的事象の原因・背景・影響などを考えて人に説明したり，地図と年代整序を組み合わせ考察したり出来る。					使用教科書・ 副教材	教科書 詳説 世界史（山川出版社） 副教材 新世界史要点ノート 新世界史研究ノート（啓隆社） 詳細世界史 10 分間テスト（山川出版社） アカデミア世界史（浜島書店）					
						課題の取り組み	別途指示					
						課 外 授 業	別途指示					
学習上の 留意点 (心構え)	(1) 「何時・何処で・誰が・何を・どのようにした」の“4W1H”を基礎項目として整理する。 (2) 「何故Why」の“1W”と「結果Result」の“1R”を客観的視点に立って，歴史的に思考する。⇒論理的に捉えて，文章で自己の考え方を表現する。 (3) 歴史の理解には時間的視野と並んで空間的視野が不可欠であることを踏まえ，地理的条件との関連に留意する。 (風土・民族の扱い・現代の課題の考察・歴史地図の活用など) (4) 授業中心の学習に心がける。黒板に板書したものだけでなく，先生の話等も積極的にメモを取る。 (5) 教科書を事前に読んでおくと定着率が抜群に向上する。その日の学習内容はその日に復習・理解に努める。					評価の観点	[関心・意欲・態度]＝世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。 [思考・判断]＝世界の歴史から課題を見だし，文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。 [資料活用の技能・表現]＝世界の歴史についての諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。 [知識・理解]＝世界の歴史についての基本的な事柄を，我が国の歴史と関連付けなら理解し，その知識を身に付けている。					
						評価の方法	授業での理解力を定期考查および実力考查等により判断し，授業に取り組む姿勢・意欲等を平常点（出席状況・小テスト・課題等の提出物・授業態度等）として，総合的に評価する。					

【3年世界史B 学習内容・到達目標】

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価					
				1	2	3	4	5	
Ⅰ	4	第 11 章 欧米における近代国民国家の発展	・ウィーン体制からの国際秩序の動揺と再編，イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程を理解する。						
			・アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。						
		第 12 章 アジア諸地域の動揺	・世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジアへの干渉と植民地化への動きと，アジアにおけるナショナリズムの萌芽を理解する。						
			・オスマン帝国，ムガル帝国，清朝といったアジアの王朝支配の動揺と改革，日本や東南アジア諸国の対応などから，19世紀を中心とするアジアとヨーロッパの関係を理解する。						
	5	第 13 章 帝国主義とアジアの民族運動	・帝国主義時代におけるヨーロッパ諸国の世界分割をめぐる競合と，支配・従属関係を伴う世界の一体化と社会の変容を理解する。						
			・欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。						
		6	第 14 章 二つの世界大戦	・第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序の大きな変化をもたらし，20世紀の大変動の機転となったことを理解する。					
	・ヴェルサイユ・ワシントン両体制の崩壊過程，世界恐慌とファシズムの台頭にいたる国際社会の政治・経済の動向を理解する。								
	7			・アジア諸民族の民族運動が大衆的な基盤を持ち，世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解する。					
				・第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大，米ソの国際的地位の高まりを理解する。					
Ⅱ	9	第 15 章 冷戦と第三世界の独立	・第二次世界大戦後，米ソを中心とした冷戦体制が成立し，東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。						
			・戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し，発言力を強めたことを理解する。						
		10	第 16 章 現代の世界	・東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体，1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解する。					
				・途上国の民主化の進展と，アジア社会主義国家の変容を理解する。					
				・世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争，紛争解決や軍縮の試みを理解する。					
				・科学技術の発達と現代文明の抱える危機，現代思想や文化の特徴について理解する。					
	11 12	センター対策	・問題の演習により，実践力の伸長をはかる。						
	Ⅲ	1 2	センター対策 2次・私大対策						

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くてきた ⑤とても良くてきた

【3年日本史 年間学習計画】

3年日本史B		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		1学期				夏季休暇	2学期				冬季休業	3学期	
学校行事						夏季課外					冬季課外		
テスト計画 (対外模試)		実力考查①	実力考查②		期末考查	(夏季課題)	実力考查③	中間考查	実力考查④	実力考查⑤			
学習内容	文系	(7) 幕藩体制の展開 (9) 近代国家の成立 (11) 占領下の日本 (13) 激動する世界と日本 共通テスト対策演習（二次・私大対策） (8) 幕藩体制の動揺 (10) 二つの世界大戦とアジア (12) 高度成長の時代 二次・私大対策											
	プログラム	(6) 幕藩体制の確立 (8) 幕藩体制の動揺 (10) 二つの世界大戦とアジア (12) 高度成長の時代 共通テスト対策演習 (7) 幕藩体制の展開 (9) 近代国家の成立 (11) 占領下の日本 (13) 激動する世界と日本											
学習内容・目標		・我が国の歴史の展開について、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の実証的な考察によってとらえられる歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 ・大学受験科目としての実力を養成する。 ・各時代を通して、基本的人権に配慮した指導を行う。				使用教科書・副教材		教科書 『詳説 日本史B』（山川出版） 副教材 『新詳 日本史図説』（浜島書店） 『日本史重要語句Check List』（啓隆社）					
						課題の取り組み		長期休暇において課題を出題する。内容は履修範囲を主とするが、休暇明けの実力考查にも含まれるので、しっかり学習すること。そして必ず提出すること。時に応じて、別途課題を出す場合もある。					
学習上の留意点 (心構え)		・授業は2年次終了の時代から進める。政治史を核にしながら、社会経済史・外交史・文化史等で肉付けをし、一つの時代をより多角的に見るよう心がける。 ・日本史の学習で重要なことは、歴史の流れと関連を理解することである。それぞれの事象の原因・背景、その後の社会への影響を考えながら理解する。語句（人名・事項・事件名等）の丸暗記では歴史を理解したとは言えない。 ・授業中心の学習に心がける。黒板に板書したものだけでなく、先生の話等も積極的にメモを取る。 ・特に予習が必要な科目ではないが、教科書を事前に読んでおくと定着率が抜群に向上する。復習を重視すること。				課外授業		原則として通常の授業を行う。					
						評価法		授業での理解力を定期考查および実力考查等により判断し、授業に取り組む姿勢・意欲等を平常点（出席状況・課題等の提出物・授業態度等）として、総合的に評価する。その際に基準を設け、それ以下の場合、救済措置として課題提出や追試を行う。					

【3年日本史B（文系） 授業・学習計画

教科	地歴	科目	日本史B	(4) 単位	3年生選択
----	----	----	------	----------	-------

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
I	4	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	・封建的支配を思想的に裏付ける儒学の影響を、政治・文化をはじめ、あらゆる面に果たした役割、および社会と関連させて考察する。					
	5	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕政の衰退と近代への道 4. 化政文化	・幕藩体制の動揺が農民の階層分化によるものであることに着目する。 ・アジアをめぐる国際情勢に着目し、幕藩体制への批判など内外の要因による幕府衰退を理解する。					
	6	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家の成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係 5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	・開国による国際社会の枠に組み込まれる中、幕府や討幕派諸藩が近代化を推進し、明治維新に至らしめたことに着目する。 ・自由民権運動の流れを理解するとともに、条約改正・朝鮮問題・日清戦争・日露戦争など国際関係の推移にも着目し理解を深める。 ・産業革命により資本主義が確立していく課程を理解し、この時期の国民生活の向上や欧米文化を消化していくことに着目する。					
	7	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代	・第一次世界大戦前後の対外政策の推移や、大戦が国内の経済・社会におよぼした影響について考察する。 ・恐慌による経済不安の国内政治への影響を理解する。					
	8	5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦	・国家改造と軍部の台頭、国際的な孤立から対外侵略へ向かう課程を理解する。 ・第二次世界大戦と日本のかかわりを国際情勢の中で考察する。					
II	9	第11章 占領下の日本 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和	・戦後日本の出発、その後の政治の推移と新しい外交関係の確立を理解する。 ・対日占領政策がアメリカの対世界政策の転換の中で、その世界政策に組み込まれていく過程について考察する。					
	10	第12章 高度成長の時代 1. 55年体制 2. 経済復興から高度成長へ	・55年体制という政治状況の中で、対米協調外交を軸に国際社会への復帰を果たした過程を考察する。 ・終戦から高度経済成長までを主に経済・文化の分野での様相を理解する。					
	11	第13章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道 2. 冷戦終結と日本社会の動揺 共通テスト対策演習	・高度経済成長を国際経済との関連に注目して理解する。 ・環境問題やエネルギー問題など国際社会における日本の果たしうる役割について認識を深める。					
	12	共通テスト対策演習						
III	1	共通テスト対策演習 & 二次・私大対策演習						
	2	二次・私大対策演習						

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた

【3年日本史B(理系) 授業・学習計画】

教科	地歴	科目	日本史B	(3) 単位	3年生選択
----	----	----	------	----------	-------

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項(到達度チェック項目)	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
I	4	第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩体制の構造	・幕藩体制を支える農民支配体制、経済基盤、封建的身分制度、鎖国などを政治的・社会的背景や役割と関連させて理解する。					
	5	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	・封建的支配を思想的に裏付ける儒学の影響を、政治・文化をはじめ、あらゆる面に果たした役割、および社会と関連させて考察する。					
	6	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕政の衰退と近代への道 4. 化政文化	・幕藩体制の動揺が農民の階層分化によるものであることに着目する。 ・アジアをめぐる国際情勢に着目し、幕藩体制への批判など内外の要因による幕府衰退を理解する。					
	7	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家の成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係 5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	・開国による国際社会の枠に組み込まれる中、幕府や討幕派諸藩が近代化を推進し、明治維新に至らしめたことに着目する。 ・自由民権運動の流れを理解するとともに、条約改正・朝鮮問題・日清戦争・日露戦争など国際関係の推移にも着目し理解を深める。 ・産業革命により資本主義が確立していく課程を理解し、この時期の国民生活の向上や欧米文化を消化していくことに着目する。					
	8	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦	・第一次世界大戦前後の対外政策の推移や、大戦が国内の経済・社会におよぼした影響について考察する。 ・恐慌による経済不安の国内政治への影響を理解する。 ・国家改造と軍部の台頭、国際的な孤立から対外侵略へ向かう課程を理解する。 ・第二次世界大戦と日本のかかわりを国際情勢の中で考察する。					
II	9	第11章 占領下の日本 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和	・戦後日本の出発、その後の政治の推移と新しい外交関係の確立を理解する。 ・対日占領政策がアメリカの対世界政策の転換の中で、その世界政策に組み込まれていく過程について考察する。					
	10	第12章 高度成長の時代 1. 55年体制 2. 経済復興から高度成長へ	・55年体制という政治状況の中で、対米協調外交を軸に国際社会への復帰を果たした過程を考察する。 ・終戦から高度経済成長までを主に経済・文化の分野での様相を理解する。					
	11	第13章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道 2. 冷戦終結と日本社会の動揺 共通テスト対策演習	・高度経済成長を国際経済との関連に注目して理解する。 ・環境問題やエネルギー問題など国際社会における日本の果たしうる役割について認識を深める。					
	12	共通テスト対策演習						
III	1	共通テスト対策演習						
	2							

学習到達度 ※(生徒)自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くてきた ⑤とても良くてきた

【3年地理B 年間学習計画】

学 期		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
		1学期					夏季休業	2学期					冬季休業	3学期		
テスト計画 (対外模試)		実力考查①	実力考查② 学研模試	進研模試・マ	期末考查 進研模試・記	(夏季課題)	実力考查③ 進研模試・マ	中間考查 進研模試・記 全統・記	実力考查④ 進研模試・マ 全統・マ	共通テスト プレテスト						
学習内 容プロ グラム	文系 ④	人口、村落・都市 世界の人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題					生活文化、民族・宗教 生活文化 民族と宗教 現代世界の国家 民族・領土問題					現代世界の地域区分 現代世界の諸地域 東アジア、東南アジア、南アジア 西アジアと中央アジア、 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ、ロシア、 アングロアメリカ、ラテンアメリカ、 オセアニア			特別授業(個別試験対策)	
	理系 ③	人口、村落・都市 世界の人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題					生活文化、民族・宗教 生活文化 民族と宗教 現代世界の国家 民族・領土問題					現代世界の地域区分 現代世界の諸地域 東アジア、東南アジア、南アジア 西アジアと中央アジア、 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ、ロシア、 アングロアメリカ、ラテンアメリカ、 オセアニア			特別授業(個別試験対策)	
学習内容・目標		(1)さまざまな地図の活用を通して、地図の有用性に気付くとともに、地理的技能を身に付ける。 (2)世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教について系統的に学習するとともに、現代世界の諸課題について地球の視野から理解する。 (3)現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解するとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付ける。					使用教科書 副教材	(教科書) 新詳 地理B (帝国書院) ・ 新詳高等地図(帝国書院) (副教材) 新編地理資料(とうほう) 新地理要点ノート(啓隆社) ・ 新地理の研究(啓隆社) 地理統計(帝国書院)								
							課題・提出物等	春休み課題プリント 夏休み課題プリント 模試訂正(毎回)								
学習上の 留意点 (心構え)		(1)地理は論理的思考力が要求される科目である。そのためには、地名や国名とその位置、地理用語等は確実に覚えること。 (2)地理的見方や考え方を身に付けるためにも、常に地図帳や統計集を活用するように心がけること。 (3)授業中心の学習を心がけること。重要な用語や箇所には常にマーカーなどで印を付けるなど工夫をすること。 (4)新聞やニュースなどは地理的情報が多いので、記事を収集し、メモするなど、自ら調べ分析する習慣を身に付けること。					評 価 法	定期考查および実力考查の評点と、授業に取り組む姿勢・意欲等の平常点(出席状況、小テスト、課題等の提出状況、授業態度等)とを総合的に判断して評価する。								

【3年地理B 学習内容・到達目標】

教科	地 歴	科目	地 理 B	単位	文系：④ 理系：③
----	-----	----	-------	----	-----------

授業・学習計画

学 期	月	授業・学習内容	学習方法・到達目標	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
I	4	人口、村落・都市 世界の人口 人口問題	・世界人口の現状について理解できたか。 ・世界や日本の人口問題の現状や課題について理解できたか。					
	5	村落・都市 村落と都市 都市・居住問題	・村落と都市の成り立ちや特徴を理解できたか。 ・日本の都市の成り立ちや特徴を理解できたか。 ・世界の都市や居住問題の現状を理解できたか。					
	6	生活文化、民族・宗教 生活文化 民族と宗教	・世界の生活文化の地域的差異を理解できたか。 ・民族と宗教の関連やその特色について理解できたか。					
	7	現代世界の国家 民族・領土問題	・現代世界の国家や国境について理解できたか。 ・世界各地の民族問題や領土問題、日本の領土問題の現状を理解できたか。					
	8	夏季課外(既習分野の復習)	・2年次の既習分野(自然環境・資源と産業)について総復習できたか。					
II	9	現代世界の地域区分 現代世界の諸地域 東アジア 東南アジア	・世界の諸地域の自然環境や資源・産業、生活文化などの学習を通してその地域性や国際社会とのかわり、日本との関係などを総合的に理解できたか。					
	10	南アジア 西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア	・世界の諸地域の自然環境や資源・産業、生活文化などの学習を通してその地域性や国際社会とのかわり、日本との関係などを総合的に理解できたか。					
	11	アングロアメリカ、 ラテンアメリカ オセアニア	・世界の諸地域の自然環境や資源・産業、生活文化などの学習を通してその地域性や国際社会とのかわり、日本との関係などを総合的に理解できたか。					
	12	共通テスト対策	・予想問題集の徹底学習で共通テストに備えることができたか。					
III	1	復習・まとめ、特別授業	・私立大対策や、国公立大個別試験対策を十分にできたか。					
	2	特別授業	・私立大対策や、国公立大個別試験対策を十分にできたか。					
	3							

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた

教科	公民	科目	政治・経済	3年文系必修	単位数	3単位
【学習目標】 科目名のとおり、現代における政治、経済、国際関係について、そのしくみやはたらきを学習していく。また、それらの理解をふまえ、現代の政治、経済に関する諸課題を考察していく。つまり、「現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける」ことがこの「政治・経済」という科目の学習目標である。						
【使用教材】 〈教科書〉 政治・経済（東京書籍） 〈副教材〉 政経・経済資料2023（とうほう）						
【学習姿勢・学習方法】 ① 「政治・経済」は単なる暗記科目ではない。教科書をよく読み、教科書の重要語句は前後の文章のなかで覚え、事項の関連性を理解することを重視すること。 ② 授業中心の学習に心がけること。また、復習を重視し、既習範囲はその都度確実にマスターしていくこと。授業プリントはノートに貼付すること。また、考査や模試で問われた内容や新しく得た知識を書き込むなどして、自分だけの「参考書」を作りあげていこう。 ③ 時事的問題に対処するためにも、新聞・ニュースなどに注意と関心を払うこと。						

【年間学習計画・学習内容・到達目標】 ※ 自己評価は、Aよくできた Bできた Cふつう Dできなかった で評価する。

学期	月	考査	学習計画・学習内容	学習方法・到達目標	自己評価
一学期	4月		現代の政治		
	5月	実力考査	1 民主政治の基本原理 ① 民主政治の成立 ② 基本的人権の確立 ③ 現代の民主政治 ④ 世界のおもな政治体制 2 日本国憲法の基本原理 ① 日本国憲法の制定と基本原則 ② 基本的人権の保障 ③ 平和主義	一学期は、「政治」について学習する。 まずは、民主政治の基本原則について学習し、その後、日本の政治のしくみ・諸課題について学習する。政治は、最高法規である日本国憲法に基づいて行われる。よって日本国憲法をよく読み込むことが大切である。 また、国際政治についても学習する。国内の政治との違いなど国際政治の特質や国際政治の動向などを学習し、日本の果たすべき役割について考察する。	[]
	6月		3 日本の政治機構 ① 国会と立法 ② 内閣と行政 ③ 裁判所と司法 ④ 地方自治 4 現代政治の特質と課題 ① 戦後政治と政党 ② 選挙と政治意識 ③ 世論と政治参加	到達目標① 民主政治の基本原則について理解し、政治に対する基本的な見方や考え方が身に付いたか。 到達目標② 日本国憲法をもとに、基本的人権の保障、国民主権、国会、内閣、裁判所、地方自治、政党政治や選挙などについて理解し、望ましい政治の在り方や、主権者としての在り方について考察することができたか。	[]
	7月	期末考査	5 現代の国際政治 ① 国際政治の特質 ② 国際社会と国際法 ③ 国際連合の役割と課題 ④ 国際政治の動向 ⑤ 国際政治の課題 ⑥ 地球環境と資源・エネルギー問題	到達目標③ 国際社会の特質や、戦後の国際政治の動向、国際連合の役割などを理解し、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察	[]

			⑦ 地球市民社会における日本の役割	できたか。	
--	--	--	-------------------	-------	--

学期	月	考 査	学習計画・学習内容	学習方法・到達目標	自己 評価
二 学 期	9 月	実 力 考 査	現代の経済 1 現代の資本主義経済 ① 資本主義体制の成立 ② 資本主義経済の発展と変容 2 現代経済のしくみ ① 経済主体と経済の循環 ② 生産のしくみと企業 ③ 市場経済の機能と限界 ④ 国民所得と経済成長 ⑤ 金融のしくみと機能 ⑥ 財政のしくみと機能 3 日本経済の発展と産業構造の変化 ① 経済再建から高度成長へ ② オイル・ショック後の日本経済 ③ 日本経済の現状 4 福祉社会と日本経済の課題 ① 公害と環境保全 ② 消費者問題 ③ 農業・食料問題 ④ 中小企業の現状と課題 ⑤ 雇用と労働問題 ⑥ 社会保障と福祉 5 国民経済と国際経済 ① 貿易と国際収支 ② 国際経済体制の展開 ③ 発展途上国の経済 ④ 地域主義の動き ⑤ グローバル化する世界経済	二学期は、「経済」について学習する。 まずは、資本主義経済の特徴や、需要と供給の関係、財政・金融のはたらきなど、経済の基本的な概念や経済理論を学習する。ここでは、身の回りの事例に置き換えるなどして、具体的に理解することが最も大切である。 そして、その理解をふまえ、日本経済の現状を把握し、日本経済が抱えている諸課題について考察する。 最後は、国際経済。ここも為替相場のしくみなどよく理解することが鍵となる。	[] [] []
	10 月	卒 業 考 査		到達目標① 経済の基本的な概念や理論を理解することができたか。	
	11 月	実 力 考 査		到達目標② 日本経済の現状や諸課題を把握し、経済活動の在り方と福祉の向上について考察できたか。	
	12 月		現代の社会の諸課題 共通テストに向けた問題演習	到達目標③ 国際経済に関する基本的な概念や理論を理解するとともに、国際経済の今日的動向を把握し、日本が果たすべき役割について考察できたか。	
三 学 期	1 月	CT	共通テストに向けた問題演習 国公立大・私大個別試験に向けた問題演習	ここでは、「政治」「経済」に関するこれまでの学習をふまえ、現代の日本及び国際社会における諸課題を、さまざまな視点から考察し、望ましい解決の在り方を考える。 同時に、共通テストに向けた問題演習に取り組み、受験に備える。	
	2 月				
	3 月				

【評価の観点及び評価方法】

関心・意欲・態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。	定期考査の成績に平常点を加味して評価する。なお、平常点は、 ☐ 実力考査 ☐ 小テストの成績 ☐ 課題等の提出状況 ☐ 授業などへの取り組み、態度 などを総合して算出する。
思考・判断	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	
資料活用の技能・表現	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	
知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。	

【考査について】

考査は、定期考査と実力考査を行う。教科書とノート（授業プリント）、を中心に復習し、理解を深めるという準備をしっかりとすること。もちろん、入試を意識した応用的な問題や、マーク式の問題も多く出題する。

考査後は、結果をもとに、自分の理解度を分析し、教科書・ノートなどで再度復習するというようなフィードバック的な方法が効果的である。「考査を一つの契機として（単元終了毎に実施する「小テスト」も同様）、既習範囲はその都度確実にマスターしていく」ことの積み重ねが大切である。

社会の仕組みなど難しく感じるかもしれないが、諦めずに頑張ろう。

【3年数学（文系） 学習計画・到達目標】

教科	数 学	科目	数学Ⅱ・A・B	【Ⅱ(2)+A(1)+B(2)】単位	3年文系
【学習内容・到達目標】 (1) 数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの演習を通じて数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの理解を深める。 (2) 問題演習を通して大学入試に必要な数学の学力を身につける。 (3) 学習活動を通して知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばす。					
【使用教材】 〈教科書〉 数研出版 高等学校「数学Ⅱ」,「数学A」,「数学B」 〈副教材〉 「Focus GoldⅠ+A・Ⅱ+B」等 〈プリント〉 休日課題・復習プリント, その他長期休業には別問題集・プリント等					
【学習上の基本的な心構え】 3年生は、これまで1,2年次で学習した数学の基礎力の上に、さらに問題演習を通じて応用力を身につけ、大学入試をはじめ、自分の進路志望実現のため、各種入試問題に対応できる実力を確実に養成しなければならない重要な学年である。特に、これまで学んだ数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bは、文系・理系いずれにおいても、すべて共通テストに出題される科目であり、またほとんどの入学試験で必要とされる科目である。文系の場合は、問題演習を主としながら、1,2年次で学習した事柄を復習し、さらに応用力をつけていく。最も大切なことは、「数学が分かり、解けるようになりたい」という前向きな姿勢で、数学に積極的に取り組むことである。 (1) 予習→授業→復習の学習サイクルで授業に臨む。 授業時間に復習ができるような、積極的な学習のリズムをつくるのが、最も望ましい。 (2) 宅習は、問題集の予習・復習を中心に宿題やテスト訂正など、少なくとも平日最低1時間以上は確保すること。 (3) 課題など指示された提出物は、期限までに必ず提出すること。 (4) 「自分の頭で考え、自分の力で解いてみる」という積極的な姿勢をもち、授業や自宅学習に集中すること。 問題の解説や解答を眺めているだけでは理解できないし、大学入試には、当然通用しない。この3年生での学習が大学入試合格・進路志望実現への大きなポイントであることを、常に意識しながら日々の学習を充実させること。					
【具体的な学習方法】 (1) 予習 ：毎日継続すること。事前に必ず問題を解いてみて、関連する公式等を確認しながら、分からない所をチェックし、授業時間に単に答え合わせをするのではなく、解答できなかった部分を集中して聞き自分のものにすること。 (2) 授業態度 ：予習で十分に理解できなかったことについて、先生の説明をよく聞き、授業時間中に理解できるように努めること。予習をしていると、先生の説明により興味が湧き、集中力も増し、それだけ理解が深まることになる。1つの問題について、いろいろな解法があるので、自分の解法だけでなく、その他の解法についてもよく研究する。 (3) 復習 ：授業で学習したことの要点をその日のうちにノートに整理し、確実に理解しているか、確認する。 「その日のうちに完全理解する」これで実力がつく。課題は必ず自分でやり、宿題・提出物は期限までに必ず出すことは言うまでもない。やらされているという意識では、向上は期待できない。 (4) ノートのとり方 ：ノートは、予習・復習および授業の学習内容を整理し、重要事項が一目で分かるようにまとめておき、いつでも利用できるように工夫しておくこと。1,2年次で自分に一番適したノートのとり方が、できるようになっているはずであるが、以下に留意点を再度示す。 ・ノートは、授業用や提出用（訂正用など）として複数用意する方がよい。 ・ノートの表紙に、組・番号・氏名をはっきり分かるように書く。詳細は教科担任の指示に従うこと。 ・字は正確かつ丁寧に書き、線は定規で引き、行間に余裕があるようなまとめ方を工夫する。 ・各問題の解答を書く際、問題の最初に「解」、最後には「答」（証明の場合は「証明」、終）と書くようにする。 (5) 演習 ：授業で習った事柄を確かめたり、さらに応用力をつけたりするためには、与えられた問題集や宿題等を中心に、できるだけ多くの問題を解いてみるのが大切である。平日の課題や休日課題にしっかり取り組んで指示された日に必ず提出できるようにすること。 (6) 諸考査について ：定期考査をはじめ、実力考査や対外模試等が計画的に実施される。考査（テスト）を受けるに際して、次のような点に留意して、勉強の計画を立てること。 ・教科書の他、指示された問題集・参考書を授業の進度に合わせて勉強し、関連するいろいろな問題も解いておく。 ・「継続は力なり」一日や二日の勉強だけでは実力はつかない。特に定期考査や実力考査は、授業で扱った内容を中心に出題されるので日頃からノートやプリント等の整理をしておき、毎日の積み重ねを大切にして、早目に復習ができるようにする。 ・3年生は対外模試の回数も増え、テストの機会がこれまでに比べて多くなる。諸考査に出題される問題は、精選された良い問題である。考査の点数のみにこだわるのではなく、「誤答にこそ、向上のポイントが隠されている」ことを肝に銘じて、答案が返されたら誤った問題は訂正ノートに、自分が納得できるまで解き直してみる。誤りを再び繰り返さないことが、学力向上の秘訣であり、入試の合格につながる。					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	到達度チェック項目	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
I	4	問題演習	○ 数と式 ○ 方程式と不等式 ○ 2次関数					
	5	問題演習	○ 図形と計量 ○ 集合と論証 ○ 場合の数と確率					
	6	問題演習	○ 方程式・式と証明 ○ 図形と方程式 ○ 三角関数 ○ 指数関数・対数関数					
	7	問題演習	○ 微分法 ○ 積分法 ○ 数列 ○ ベクトル					
	8	問題演習	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
II	9	問題演習	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
	10	問題演習	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
	11	問題演習	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
	12	問題演習	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
III	1	問題演習 特別授業	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
	2	特別授業	○ 個別試験対策					
	3	特別授業	○ 個別試験対策					

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた

【3年数学（理系） 学習計画・到達目標】

教科	数学	科目	数学Ⅲ・B	【Ⅲ(5)＋B(2)】単位	3年生理系
【学習内容・到達目標】 (1) 分数関数、無理関数、三角・指数・対数関数などいろいろな関数の極限や微分法・積分法についての理解を深める。 (2) 数学Ⅲ・Bの学習内容の問題演習を通して、総合的な思考力や応用力を高める。 (3) 学習活動を通して知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばす。					
【使用教材】 〈教科書〉 数研出版 高等学校「数学Ⅲ」、「数学B」 〈副教材〉 「Focus Gold 数学Ⅱ＋B・数学Ⅲ」、等 〈プリント〉 休日課題・復習プリント、その他長期休業には別問題集・プリント等					
【学習上の基本的な心構え】 3年生は、これまで1、2年次で学習した数学の基礎力の上に、さらに問題演習を通じて応用力を身につけ、大学入試をはじめ、自分の進路志望実現のため、各種入試問題に対応できる実力を確実に養成しなければならない重要な学年である。特に理系は、これまで学んだ数学Ⅰ・A、Ⅱ・Bの復習と演習に加えて、新たに数学Ⅲを学習することになり、文系に比べて内容的にも高度で、学習量も一段と多くなる。数学Ⅲの教科書を進める傍ら、入試問題演習も授業で扱っていくが、基本的な事項の復習をしながら、さらに応用力をつけていき、入試に対応できる本物の数学の実力を身につけなければならない。最も大切なことは、「数学が分かり、解けるようになりたい」という前向きな姿勢で、これまで以上に、数学に対して積極的に取り組むことである。 (1) 授業こそが最も重視すべき時間と位置づけ、その授業をより効果的に受けるために、予習→授業→復習の学習サイクルをしっかりと作り上げて授業に臨む。 (2) 宅習は、問題集の予習・復習を中心に宿題やテスト訂正など、少なくとも平日最低1時間以上は確保すること。 (3) 課題など指示された提出物は、期限までに必ず提出すること。 (4) 「理解できるということと、自分で解けるということには、大きな開きがある」というスタンスのもと「自分の頭で考え、自分の力で解いてみる」という積極的な姿勢を持つことが、学力向上の秘訣である。つまり、問題の解説や解答を眺めているだけでは学力は定着しないし、大学入試には当然通用しない。この3年生での学習が、大学入試合格・進路志望実現への大きなポイントであることを、常に意識しながら日々の学習を充実させること。					
【具体的な学習方法】 (1) 予習 ：毎日継続すること。事前に必ず教科書や入試問題集の問題を解いてみて、関連する公式等を確認しながら、分からない所をチェックして授業に臨む。そして授業時には単に答え合わせをするのではなく、解答できなかった部分を集中して聞き、自分のものにすること。予習中心の「一歩前をゆく」学習法で実力がつき、数学に対する自信も湧く。 (2) 授業態度 ：予習で十分に理解できなかったことについて、先生の説明をよく聞き、授業時間中に理解できるように努めること。予習をしていると、先生の説明により興味が湧き、集中力も増しそれだけ理解が深まることになる。1つの問題について、いろいろな解法があるので、自分の解法だけでなく、その他の解法についてもよく研究する。共通テストだけでなく、国公立大学の個別試験など記述式の大学入試問題に対応するためには、さまざまな解法を見出せる柔軟な数学の発想力も要求されるので、日頃から、自分なりの解法をみつけるという意識で勉強すること。 (3) 復習 ：授業で学習したことの要点をその日のうちにノートに整理し、どこが理解できていて、どこができていないかをしっかり分析する。そして、理解できていなかったところは、「その日のうちに完全理解する」姿勢で復習に力を入れる。これで実力がつく。課題は必ず自分でやり、宿題・提出物は期限までに必ず出すことは言うまでもない。やらされているという意識では、向上は期待できない。 (4) ノートのとり方 ：ノートは、予習・復習および授業の学習内容を整理し、重要事項が一目で分かるようにまとめておき、いつでも利用できるように工夫しておくこと。よくポイントが整理されたノートは、受験勉強の際、最もためになる参考書ともなる。1、2年次で自分に一番適したノートのとり方ができるようになっているはずであるが、以下に留意点を再度示す。 ・ノートは、授業用や提出用（訂正用など）として複数用意する方がよい。 ・ノートの表紙に、組・番号・氏名をはっきり分かるように書く。詳細は教科担任の指示に従うこと。 ・字は正確かつ丁寧に書き、線は定規で引き、行間に余裕があるようなまとめ方を工夫する。 ・各問題の解答を書く際、問題の最初に「解」、最後には「答」（証明の場合は「証明」、「終」）と書くようにする。 (5) 演習 ：授業で習った事柄を確かめたり、さらに応用力をつけたりするためには、与えられた問題集や宿題等を中心に、できるだけ多くの問題を解いてみるのが大切である。平日の課題や休日課題にしっかり取り組んで指示された日に必ず提出できるようにすること。 (6) 諸考査について ：定期考査をはじめ、実力考査や対外模試等が計画的に実施される。考査（テスト）を受けるに際して、次のような点に留意して、勉強の計画を立てること。 ・教科書の他、指示された問題集・参考書を授業の進度に合わせて勉強し、関連するいろいろな問題も解いておく。 ・「継続は力なり」一日や二日の勉強だけでは実力はつかない。特に定期考査や実力考査は、授業で扱った内容を中心に出题されるので、日頃からノートやプリント等の整理をしておき、毎日の積み重ねを大切に早目に復習ができるようにする。 ・3年生は対外模試の回数も増え、テストの機会がこれまでに比べて多くなる。諸考査に出题される問題は、精選された良い問題である。考査の点数のみにこだわらず、「誤答にこそ、向上のポイントが隠されている」ことを肝に銘じて、テスト後はその日のうちに復習し、答案が返されたら誤った問題は訂正ノートに、自分が納得できるまで解き直してみる。つまり、考査で力をつけてゆくのである。誤りを再び繰り返さないことが、学力向上の秘訣であり、入試の合格につながる。					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
I	4	【数学Ⅲ】 4章 極限	○ 極限の基本的な考え方を理解できる。 ○ 数列の収束・発散について理解できる。 ○ 無限等比級数の和について理解できる。 ○ 関数の極限について理解し、いろいろな関数の極限が求められる。					
	5	5章 微分法	○ 微分可能の意味が理解できる。 ○ 関数の積・商の微分ができる。 ○ 合成関数・逆関数の微分ができる。 ○ 三角関数・指数関数・対数関数の微分ができる。 ○ n 次導関数，二次曲線や媒介変数表示された関数の dy/dx が求められる。					
	6	6章 微分法の応用	○ 様々な関数のグラフの接線の方程式を求められる。 ○ 平均値の定理を理解し，利用することができる。 ○ 様々な関数の増減・グラフの凹凸を調べてグラフをかくことができる。 ○ 微分法を不等式の証明に利用することができる。					
	7	7章 積分法とその応用	○ 三角関数・指数関数・対数関数の不定積分を求めることができる。 ○ 置換積分法・部分積分法を理解し，利用することができる。 ○ 定積分の性質を理解し，不定積分で学んだ計算法を用いて定積分の値を正しく計算できる。 ○ 微分と積分の関係を理解し，定積分で表された関数について応用できる。 ○ 定積分と区分求積法の関係を理解し，証明に応用することができる。 ○ 定積分の計算を使い，不等式を証明できる。 ○ 曲線で囲まれた図形の面積が定積分で表されることを理解し，いろいろな図形の面積を計算できる。 ○ 定積分を使い，立体や回転体の体積を計算できる。 ○ 曲線の長さを計算できる。					
	8	<夏季課外>	○ 総合的な問題演習					
	9	(問題演習)	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
	10	(問題演習)	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
II	11	(問題演習)	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
	12	(問題演習)	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
III	1	(問題演習) <特別授業>	○ 共通テスト対策 ○ 個別試験対策					
	2	<特別授業>	○ 個別試験対策					
	3	<特別授業>	○ 個別試験対策					

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くてきた ⑤とても良くてきた

【3年数学 年間学習計画】

3年数学		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		1学期				2学期				3学期		
学校行事		入学式		文化祭		体育祭				卒業式		
テスト計画 (対外模試)		実力考查①	実力考查②		期末考查 (進研模試)	実力考查③	中間考查 実力考查④	実力考查⑤ (進研模試)		大学入学共 通テスト	大学入試	
学習内 容プロ グラム	文系 ⑤	【数学Ⅱ・A・B】 数学ⅠA・ⅡB 問題演習				【数学Ⅱ・A・B】 数ⅠA・ⅡB 問題演習 → 共通テスト+個別試験対策				数学特別授業		
	理系 ⑦	【数学Ⅲ】 ① 極限 ② 微分法 ③ 積分法				【数学Ⅲ】 数学Ⅲ問題演習 数ⅠA・ⅡB 問題演習 → 個別試験対策 共通テスト+個別試験対策 【数学B】 数ⅠA・ⅡB 問題演習 → 共通テスト+個別試験対策				数学特別授業		
学習内容・目標		数学を学ぶことで、基礎的な知識を身に付け、物事を数学的に考えられる力を伸ばし、新たな課題解決に数学を活用しようとする態度を育てられるようにする。また、進路実現のために、能力・適性に合った習熟度別授業・少人数指導を効率的に実施して、学力向上を目指す。				使用教科書・副教材	〈教科書〉 数研出版 高等学校「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」 〈副教材〉 「Focus Gold 数学Ⅰ+A・Ⅱ+B・数学Ⅲ (理系のみ)」					
学習上の留意点 (心構え)		(1) 予習→授業→復習のサイクルで授業にのぞむ。 (2) 「自分の頭で考え、自分の力で解いてみる」という姿勢をもつこと。 (3) 課題など指示された提出物は期限までに必ず提出すること。				課題・提出物等	○休日課題・復習プリント ○各考查訂正・復習ノート ○長期休業 (夏休み・冬休み) については別途指示					
						課 外 授 業	夏季課外 (前期7月, 後期8月), 冬季課外 (12月), 土曜補習					
						評 価 法	考查点および平常点 (出席点, 活動点, 単元テスト, 小テスト, 提出物等) の総合評価					

科 目	物理基礎・物理	学 年	2・3年	単位数	物理基礎2年2単位 物理2年2単位・3年4単位
学習の到達目標	物理的な事物・現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探求心を高め, 物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な自然観を育成する。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〔教科書〕数研出版「物理基礎」 数研出版「総合物理1」「総合物理2」 〔副教材〕数研出版「リードα物理基礎・物理」	数研出版「フォローアップ・ドリル」 河合出版「良問の風 物理」

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習する態度
評価の観点	知識の習得や知識の概念的な理解, 実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において, 粘り強く学習に取り組んでいるか, 自ら学習を調整しようとしているか。
評価方法	定期考査, 実力考査, ワークシート, 実験報告書, 課題の取組・提出状況, 授業ノート 等 ① 知識・技能 授業中の発言や記述の内容, ペーパーテストなどから状況をみる。観察, 実験において, 基本操作を習得するとともに, 観察, 実験の計画的な実施, 結果の記録や整理, 資料の活用の仕方などを身に付けているかについて, 行動や記述の内容, パフォーマンステストなどから状況をみる。 ② 思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, その結果を解釈し表現するなど, 科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを, 発言や記述の内容, ペーパーテストなどから状況をみる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり, 見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究しようとしているかを, 発言や記述の内容, 行動などから状況をみる。		
★	探求力(追求力))	思考力, 実行力	コミュニケーション力, 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
2年1学期	4	第1編 力と運動 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動	(1) 物理の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能。 (2) 観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度。
	5	第2章 運動の法則 1. 力のはたらき 2. 力のつり合い 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 6. 剛体にはたらく力のつり合い	
	6	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存	
	7	第4章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数	
2学期	9	第5章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動 4. 万有引力	

(1) 予習において教科書を開き, 授業で学習する内容の概要を把握する。
 (2) 授業中は内容についてしっかり理解しようという気持ちで臨み, 教師の説明を真剣に受け止め, 納得のいかないことについては必ず質問する。
 (3) 授業ノートを日付まで記入し, 習ったことはその日のうちに復習する。また, 教科書の重要ポイントは蛍光ペンでアンダーラインを引いたり書き出したりして, 記憶に残す割合を増やす。
 (4) 身の回りの自然現象に積極的に興味・関心・疑問を持つよう心がけ, 自力で解決する力を養う。

3 学 期	10	第2編 熱と気体 第1章 熱と物質 1. 熱と物質の状態 2. 熱と仕事	
	11	第2章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化 4. エネルギーの移り変わり	
	12	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 正弦波の式 3. 波の伝わり方	
	1	第2章 音 1. 音の伝わり方 2. 発音体の振動と共振・共鳴 3. 音のドップラー効果	
	2	第3章 光 1. 光の性質 2. レンズと鏡 3. 光の干渉と回折	
	3	第4編 電気と磁気 第1章 電場 1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. 物質と電場 5. コンデンサー	
	4	第2章 電流 1. オームの法則 2. 直流回路 3. 半導体	
	6	第3章 電流と磁場 1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力	
	7	第4章 電磁誘導と電磁波 1. 電磁誘導の法則 2. 自己誘導と相互誘導 3. 交流の発生 4. 交流回路 5. 電磁波	
	9		
2 学 期	10	第5編 原子 第1章 電子と光 1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性	
	11	第2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子	
	12	発展演習	
3 学 期	1	大学入学共通テスト対策 個別試験対策	
	2		

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

【3年 化学 学習内容・到達目標】

教科	理科	科目	化学	(5) 単位	3年 理系
【学習内容・到達目標】 (1) 化学反応の速さと平衡について理解する。 (2) 無機物質の性質や反応を観察，実験などを通して探究し，元素の性質が周期表に基づいていることを理解する。 (3) 種々の無機物質を日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 (4) 有機化合物の性質や反応を観察，実験などを通して探究し，有機化合物の分類と特徴を理解する。 (5) 種々の有機化合物を日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 (6) 合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解する。 (7) 種々の高分子化合物を日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。					
【使用教材】 〔教科書〕 数研出版 「新編 化学」 〔副教材〕 博洋社 「化学研究ノート」， 他 問題集，資料集 あり					
【学習方法・心構え】 (1) 予習において教科書を開き，授業で学習する内容の概要を把握する。 (2) 授業中は内容についてしっかり理解しようという気持ちで臨み，教師の説明を真剣に受け止め，納得のいかないことについては必ず質問する。 (3) 授業ノートを日付まで記入し，習ったことはその日のうちに復習する。また，教科書の重要ポイントは蛍光ペンでアンダーラインを引いたり書き出したりして，記憶に残す割合を増やす。 (4) ノートは3種類（授業用，問題演習・宿題用，テスト反省・訂正用）を用意する。 (5) 身の回りの自然現象に積極的に興味・疑問を持つよう心がけ，自力で解決する力を養う。					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
1	4	2編 物質の変化	・化学反応の速さを単位を示して説明できたか。					
		3章 化学反応の速さとしくみ	・反応条件と反応の速さの関係を説明できたか。					
			・活性化エネルギーと触媒の関係を理解したか。					
		4章 化学平衡	・温度一定で可逆反応は平衡状態になることを理解したか。					
			・ルシャトリエの平衡移動の原理を摘要できたか。					
	5	4編 無機物質	・電離反応の可逆反応式を書き，電離定数の式を導くことができたか。					
		1章 非金属元素	・貴（希）ガスは電子配置が安定で，単原子分子となることを理解したか。					
			・水素の製法，性質を理解したか。					
			・14 ～ 17 族元素の単体の性質を周期表に基づいて理解したか。					
			・14 ～ 17 族元素の主な化合物の製法や性質を理解したか。					
	6		・濃硫酸，アンモニア，硝酸の工業的製法を理解したか。					
			・主な気体の実験室的製法について，化学反応式や実験方法を覚えることができたか。					
		2章 典型金属元素	・アルカリ金属，アルカリ土類金属の単体や化合物の製法や性質を理解したか。					
			・両性元素の単体や化合物の製法や性質を理解したか。					
		3章 遷移元素	・遷移元素と典型元素の違いを周期表に基づいて理解したか。					

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
2	6	3章 遷移元素	・主な遷移元素の単体や化合物の製法や性質を理解したか。					
			・金属イオンがつくる沈殿の色や特徴を覚えることができたか。					
			・多数のイオンを含む溶液からの系統的分離法を理解したか。					
			・様々な無機物質と我々の生活との関わりについて理解したか。					
	7	4編 有機化合物 1章 有機化合物の分類と分析	・有機化合物と無機化合物との違いを理解したか。					
			・分子式、示性式、構造式など、有機化合物の表し方を理解したか。					
			・脂肪族炭化水素について、構造の特徴や、製法、性質、主な反応を理解したか。					
			・アルコールなど、酸素を含む有機化合物の構造、製法、性質、主な反応を理解したか。					
	8	2章 脂肪族化合物	・油脂やセッケン、合成洗剤の構造、性質、主な反応を理解したか。					
			・代表的な脂肪族化合物の名称や構造式を正確に覚えることができたか。					
			・ベンゼンの構造や性質、主な反応を理解したか。					
			・フェノール類やアミンなど、主な芳香族化合物の製法、性質、主な反応を理解したか。					
	9	3章 アルコールと関連化合物	・芳香族化合物の混合物の系統的分離法を理解したか。					
			・様々な有機化合物が、身の周りで利用されていることを理解したか。					
	10	5編 高分子化合物 1章 高分子化合物の特徴 2章 天然高分子化合物	・天然高分子化合物と合成高分子化合物について、その特徴や分類を理解したか。					
			・グルコースやデンプンなど、主な糖類の構造や性質、主な反応を理解したか。					
			・アミノ酸やタンパク質、核酸の構造や性質、主な反応を理解したか。					
			・ナイロンやポリエステルなど、主な合成繊維の製法や構造、性質を理解したか。					
3	11	3章 合成高分子化合物	・主な合成樹脂の製法や構造、性質を理解したか。					
			・天然ゴム、合成ゴムの製法や構造、性質を理解したか。					
			・衣料、プラスチック、機能性高分子の種類や性質について理解したか。					
	12	大学入学共通テスト						
	1	個別試験						
3	2	実践演習						
	3							

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くてきた ⑤とても良くてきた

【3年 化学 年間学習計画】

	1学期					2学期				3学期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
考查等	実力考查 対外模試	実力考查	対外模試	期末考查 対外模試	対外模試	実力考查 対外模試	卒業考查 対外模試	実力考查 対外模試	対外模試	大学入学 共通テスト	大学入学 個別試験				
学 習 内 容 プ ロ グ ラ ム	2編 物質の変化		3編 無機物質			4編 有機化合物				5編 高分子化合物			大学入学共通テスト 個別試験 実践演習		
	3章 化学反応の速さとしくみ	4章 化学平衡	1章 非金属元素	2章 典型金属元素	3章 遷移元素	1章 有機化合物の分類と分析	2章 脂肪族炭化水素	3章 アルコールと関連化合物	4章 芳香族化合物	1章 高分子化合物の特徴	2章 天然高分子化合物	3章 合成高分子化合物			
学 習 内 容 ・ 目 標	(1) 化学反応の速さと平衡について理解する。 (2) 無機物質の性質や反応を観察，実験などを通して探究し，元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解する。 (3) 種々の無機物質を日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 (4) 有機化合物の性質や反応を観察，実験などを通して探究し，化合物の分類と特徴を理解する。 (5) 種々の有機化合物を日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 (6) 合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解する。 (7) 種々の高分子化合物を日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。									使用教科書 ・副教材		・教科書 数研出版 「新編 化学」 ・副教材 博洋社 「化学研究ノート」 他 問題集，資料集あり			
										課題・提出物等		・週末課題 ・日々題 ・長期休業課題 ・訂正ノート			
学 習 上 の 留 意 点 (心構え)	(1) 予習において教科書を開き，授業で学習する内容の概要を把握する。 (2) 授業中は内容についてしっかり理解しようという気持ちで臨み，教師の説明を真剣に受け止め，納得のいかないことについては必ず質問する。 (3) 授業ノートを日付まで記入し，習ったことはその日のうちに復習する。また，教科書の重要ポイントは蛍光ペンでアンダーラインを引いたり書き出したりして，記憶に残す割合を増やす。 (4) ノートは3種類（授業用，問題演習・宿題用，テスト反省・訂正用）を用意する。 (5) 身の回りの自然現象に積極的に興味・疑問を持つよう心がけ，自力で解決する力を養う。									課外授業		夏季課外，冬季課外			
										評価法		定期考查，ワークシート，実験報告書， 平常点（課題の提出状況・授業ノートの記入状況）			

< 3 年生・生物基礎・文系 > 今年度の学習計画・到達目標

教科	理 科	科目	生 物 基 礎	(2) 単位	3 年 生 文 系
【学習内容・到達目標】					
(1) 生物界を広くとらえた視点を身につける。					
(2) 生物と遺伝子について、細胞の働きおよび DNA の構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。					
(3) 生物には体内環境を維持するしくみがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。					
(4) 生物の多様性と生態系について理解し、その保全の重要性について認識する。					
【使用教材】					
教科書 「改訂版 生物基礎」(数研出版)					
副教材 「リードライトノート生物基礎」(数研出版)					
「進研 WINSTEP 生物基礎」((株)ラーンズ)					
【学習方法・心構え】					
① 自然の事物や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する。					
② 実験や観察を行い、分析的かつ論理的に考察し、問題を解決できる能力を身につける。					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
I	4	1 章：生物の特徴 1 細胞の多様性と共通性	・電子顕微鏡レベルでの細胞内構造を考える。 (生物が細胞から出来ており、細胞内には色々な働きをする細胞小器官があることが理解できたか。) 【観察・実験】原核生物と真核生物					
		2 細胞とエネルギー	・細胞内での化学反応には酵素が用いられていることを理解する。 (酵素の働きを理解できたか。) ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。 (ATP と ADP が、同化・異化の中で変換されるしくみが理解できたか。)					
	5	2 章：遺伝子とその働き 1 遺伝現象と遺伝子	・遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴を理解する。 (二重らせん構造を正しく理解し、鋳型 DNA から相補鎖の塩基配列が予想できたか。)					
		2 遺伝情報の複製と分配	・DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。 (体細胞分裂の過程と特徴を理解できたか。また、染色体の特徴を理解できたか。)					
		3 遺伝情報と タンパク質の合成	・DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。 (特定の塩基配列から翻訳されるアミノ酸配列を予測できたか。)					
	6	3 章 生物の体内環境 1 体内液とその働き	・体液がつくる内部環境とはどのようなものか学習する。 (体液の組成・循環及び働きが理解できたか。) ・体液による恒常性の維持のしくみを理解する。 (浸透圧調節、腎臓・肝臓のはたらきを理解できたか。) ・情報の伝達や効果器への命令は神経系で行われることを理解する。 (神経系の構造としくみ、興奮の伝導・伝達について理解できたか。)					
7	2 生体防御	・免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解する。 (体液性免疫と細胞性免疫の違いを理解したか。)						
		3 体内環境の維持のしくみ	・恒常性を維持するためのホルモン・自律神経のはたらきを理解する。 (自律神経のしくみと調節が理解できたか。また、ホルモンの種類と働きが理解できたか。) (恒常性の維持のしくみが理解できたか。)					
学習到達度 ※（生徒）自己評価の例：○印を記入								
①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた								

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
Ⅱ	9	4章 バイオームの多様性と分布 1 生物の多様性とバイオーム	・陸上には様々な植生が見られ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。。 （光合成・階層構造・遷移の流れを理解したか。） ・気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解する。 （水平分布と垂直分布を理解したか。） ・生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解する。 （遷移と生態系の変化を関連づけて考えることができたか。） ・生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識する。 （人間の活動が生態系をかく乱させ、生物の多様性が損なわれることがあることを理解したか。） ・炭素循環・窒素循環について理解する。 ・外来生物・種の保存について理解する。					
	10	2 バイオームの形成過程 3 バイオームとその分布						
	11	5章 生態系とその保全 1 生態系 2 生態系のバランスと保全 3 生態系の保全						
	12	大学入学共通テストに向けての勉強						
	Ⅲ	1						
2								
3								
学習到達度 ※（生徒）自己評価の例：○印を記入 ①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた								

【3年 生物基礎 年間学習計画（文系）】

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月			1月		2月			
	1学期									夏季休業		2学期								冬季休業		3学期			
学校行事	入学式 学習方法体験学習									夏季課外															
テスト計画 (対外模試)	実力考査				実力考査		期末考査		(夏季課題)		実力考査②		中間考査		実力考査③										
学習内容プログラム	第1編 生物と遺伝子					2編 生物の体内環境の維持						第3編 生物の多様性と生態系						大学入学共通テストに向けての演習				二次試験に向けての演習			
	第1章		第2章			第3章		第4章				第5章													
	1 生物の多様性と共通性	2 細胞とエネルギー	1 遺伝情報とその働き	2 遺伝情報の複製と分配	3 遺伝情報とタンパク質の合成	1 体液とその働き	2 生体防御	3 体内環境の維持のしくみ	一学期の総復習(夏季課題提示)		1 生物の多様性とバイオーム	2 バイオームの形成過程	3 バイオームとその分布	1 生態系	2 生態系のバランスと保全	3 生態系の保全									
学習内容・目標	1. 生物界を広くとらえた視点を身につける。 2. 生物と遺伝子について、細胞の働きおよびDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。 3. 生物には体内環境を維持するしくみがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。 4. 生物の多様性と生態系について理解し、その保全の重要性について認識する。									使用教科書・副教材		・教科書 「改訂版 生物基礎」(数研出版) ・副教材 「進研 WINSTEP 生物基礎」((株)ラーゼンズ) 「リードライトノート 生物基礎」(数研出版)													
												課題・提出物等		・週末課題 ・夏期・冬期・春期課題 ・訂正ノート											
学習上の留意点 (心構え)	1. 予習において教科書を開き、授業で学習する内容の概要を把握する。 (読んで理解できないところにチェックの「レ点」をつける) 2. 授業中は内容についてしっかり理解しようという気持ちで臨み、教師の説明を真剣に受け止め、納得のいかないことについては必ず質問する。 3. 授業ノートには日付まで記入し、習ったことはその日のうちに復習する。既習範囲の宿題を課すので、復習に役立てる。また、教科書の重要ポイントは蛍光ペンでアンダーラインを引いたり書き出したりして、記憶に残す割合を増やす。 4. ノートは3種類(授業用、問題演習・宿題用、テスト反省・訂正用)を用意する。 5. 身の回りの自然現象に積極的に興味・疑問を持つよう心がけ、自力で解決する努力をする。									課外授業															
												評価法		定期考査、実力考査、実験報告書、小テスト、平常点(課題の提出状況、授業における意欲・態度)											

< 3 年生・生物（理系）> 今年度の学習計画・到達目標

教科	理 科	科目	生物（理系）	（ 4 ）単位	3 年 理系生物選択者
【学習内容・到達目標】					
(1) 細胞、生殖と発生及び遺伝の基本的な概念や原理を理解し、生物体の成り立ちと種族の維持のしくみを学び、生命の連続性について見方や考え方を学習する。					
(2) 環境と生物の反応の間に見られるしくみを理解し、生物は、個体として外部環境の変化に対応して、安定した内部環境を維持したり、成長や器官の分化を調節したりすることを学習する。					
【使用教材】					
〈教科書〉 「生物」（数研出版）					
〈副教材〉 「スクエア最新図説生物」（第一学習社）					
「リード Light ノート生物」（数研出版）					
「WINSTEP 生物」（ラーンズ）					
【学習方法・心構え】					
① 自然の事物や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する。					
② 実験や観察を行い、分析的かつ論理的に考察し、問題を解決できる能力を身につける。					

授業・学習計画

学期・月	授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価				
			1	2	3	4	5
一 学 期	第4章 生殖と発生						
	4 動物の配偶子形成と受精	・動物の卵形成と精子形成の違いを理解するとともに、ウニの受精の過程で起こる反応を理解したか。					
	5 初期発生の過程	・ウニとカエルの初期発生について、特に胚葉の分化の違いを理解したか。					
	6 細胞の分化と形態形成	・中胚葉誘導および神経誘導に関係するタンパク質の働きを理解したか。					
	7 植物の配偶子形成と発生	・植物の配偶子形成と重複受精について理解し、ABCモデルを例に器官形成のしくみについて考えを深めたか。					
	第5章 動物の反応と行動						
	1 ニューロンとその興奮	・ニューロンの構造と興奮が生じるしくみを理解できたか。					
	2 刺激の受容	・目や耳の構造に関心を持ち、遠近調節や明暗調節などのしくみについて理解しようとしたか。					
	3 情報の統合	・脳や脊髄のはたらきにより情報が統合的に処理されていることを理解できたか。					
	4 刺激への反応	・筋繊維の構造と筋収縮のしくみについて理解できたか。					
	5 動物の行動	・生得的な行動と学習による行動の違いを理解できたか。					
	第6章 植物の環境応答						
	1 植物の生活と環境応答	・種子の発芽や休眠に関与する植物ホルモンについて関心を持ち、理解しようとしたか。					
	2 発芽の調節	・発芽におけるジベレリンのはたらきとフィトクロームによる光発芽種子の発芽調節を理解できたか。					
	3 成長の調節	・オーキシンやジベレリンのはたらきと極性移動について理解できたか。					
	4 環境の変化に対する応答	・気孔開閉のしくみと植物の病害虫や低温への防御応答について理解できたか。					
	5 花芽形成・結実の調節	・光周性に連続した暗期が関係していることと、果実の成熟や落葉に関係する植物ホルモンについて理解したか。					
学習到達度 ※（生徒）自己評価の例：○印を記入							
①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた							

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項（到達度チェック項目）	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
二 学 期	9	第7章 生物群集と生態系 1 個体群	・個体群の成長と密度効果について理解し、生物によって生存曲線に違いが生じる理由について考えを深めたか。					
		2 個体群内の個体間の関係	・群れや縄張り、分業など同種個体間の関係について興味をもって理解しようとしたか。					
		3 異種個体群間の関係	・生態的地位について理解するとともに、共生など異種間の相互関係について興味をもって理解しようとしたか。					
		4 生物群集	・生態系における食う食われるの関係、キーストーン種や攪乱がもたらす共存について理解できたか。					
		5 生態系における物質生産	・生態系における物質生産の関係に関心をもち、理解しようとしたか。					
		6 生態系と生物多様性	・生物多様性の3つの階層を理解し、開発や外来種など生物多様性を脅かす要因と環境保全について考えを深めたか。					
	10	第8章 生命の起源と進化 1 生命の起源と初期の生物の変遷	・有機物の生成による生命の誕生と、生物の代謝による地球環境の変化とそれによる生物の進化について理解できたか。					
		2 多細胞生物の変遷	・動物と植物の変遷に興味を持ち、人類の進化についても興味をもって理解しようとしたか。					
		3 進化のしくみ	・自然選択や遺伝的浮動が遺伝子頻度を変化させることと種分化の過程について理解したか。					
	11	第9章 生物の系統 1 生物の系統	・生物の分類単位を理解しするとともに、分子系統樹とその作成法について理解したか。					
		2 生物の多様性	・生物の多様性について実感できたか。					
		大学入学共通テストに向けての学習						
三 学 期	12							
	1	二次試験に向けての学習						
	2							
学習到達度 ※（生徒）自己評価の例：○印を記入 ①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くてできた ⑤とても良くてできた								

【3年生物（理系） 年間学習計画】

学期・月	1 学期				夏季休業	2 学期				冬季休業	3 学期	
行事・考査等	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月
テスト計画 (対外模試) ／教科・科目	学習方法体験学習 文化祭 [実力考査] [実力考査] [期末考査]					体育祭 [実力考査]	(対外模試) [卒業考査]	強歩大会 修学旅行 [実力考査]	(※ 3 年の対外模試は年間を通			
	第 4 章 生殖と発生	第 5 章 動物の反応と行動	第 6 章 植物の環境応答			第 7 章 生物群集と生態系	第 8 章 生命の起源と進化	第 9 章 生物の系統				
	動物の配偶子形成と受精，初期発生の過程，細胞の分化と形態形成，植物の配偶子形成と発生	ニューロンとその興奮，刺激の受容，情報の統合，刺激への反応，動物の行動	植物の生活と環境応答，発芽の調節，成長の調節，環境の変化に対する応答，花芽形成・結実の調節			個体群，個体群内の個体間の関係，異種個体群間の関係，生物群集，生態系における物質生産，生態系と生物多様性	生命の起源と初期の生物の変遷，多細胞生物の変遷，進化のしくみ	生物の系統，生物の多様性	大学入学共通テストに向けての演習			二次試験に向けての演習
学習内容 ・ 目標	1. 細胞，生殖と発生及び遺伝の基本的な概念や原理を理解し，生物体の成り立ちと種族の維持のしくみを学び，生命の連続性についての見方や考え方を学習する。 2. 環境と生物の反応の間にみられるしくみを理解し，生物は，個体として外部環境の変化に対応して，安定した内部環境を維持したり，成長や器官の分化を調節したりすることを学習する。					使用教科書・副教材	《教科書》 「生物」（数研出版） 《副教材》 「スクエア最新図説生物」（第一学習社） 「リードLight ノート生物（数研出版）」 「WINSTEP」（ラーンズ）					
							夏季・冬季・春季課題 考査ごとに提出する試験範囲の研究ノート及び WINSTEP 訂正ノート					
学習上の 留意点	1. 自然の事物や現象に関心を持ち意欲的にそれらを探求する。 2. 実験や観察を行い分析的かつ論理的に考察し問題を解決出来る能力を身につける。					課題・提出物等						
						課 外 授 業						
						評 価 等	定期考査，実力考査，課題，授業における意欲・態度					

【3年文系 地学基礎 学習内容・到達目標】

教科	理科	科目	地学基礎	2単位	3年生（文系）
【学習内容・到達目標】 (1) 地球の環境や日本の自然災害について、原因や人々の生活に及ぼす影響について学ぶ。 (2) 太陽のエネルギー源や構造、活動のようすについて理解する。 (3) 恒星の進化の過程や時間的スケールを理解するとともに、宇宙の構造について学ぶ。					
【使用教材】 （教科書）地学基礎（数研出版） （副教材）新地学図表（浜島書店）研究ノート（博洋社）センサー地学基礎（啓林館）					
【学習方法・心構え】 ① 授業を大切にしましょう。重要だと思うところはメモをとったり教科書に線を引いたりすること。 ② 復習中心の学習をしましょう。その日に習ったことはその日のうちに理解すること。質問大歓迎です。 ③ 宿題は必ずやり遂げ、期限内に提出しましょう。随時、小テストも行います。 ④ 考査や模試を受けた後は、訂正を確実に行いましょう。同じミスを繰り返さないことが大切です。 ⑤ 日頃から、新聞やテレビなどの地学的な話題に関心を持ちましょう。					

授業・学習計画

学期	月	授業・学習内容	評価の観点（到達度チェック項目）	学習到達度(自己評価)				
				1	2	3	4	5
1	4	第4編 地球の環境 第1章 地球環境の科学 1 環境と人間 2 地球環境問題	・地球環境システムについて理解できたか。					
			・地球環境に与える人間の影響について理解したか。					
			・日本の自然環境について理解したか。					
			・様々な自然災害の発生システムを理解できたか。					
	5	第2章 日本の自然環境 1 日本の自然環境 2 地震災害 3 火山災害 4 土砂災害 5 気象災害	・自然災害への対応について理解できたか。					
			・学んだ防災知識等を役立てようと意識できたか。					
			・太陽の構造が理解できたか。					
			・太陽表面の現象が理解できたか。					
	6	第5編 宇宙の構成 第1章 太陽と恒星 1 太陽の活動 2 太陽の一生 3 恒星の明るさ	・太陽の活動とエネルギー源が理解できたか。					
			・星の明るさや色の違いが理解できたか。					
	7	第2章 宇宙のすがた 1 宇宙の構造 2 宇宙の誕生	・銀河系の構造を理解できたか。					
			・宇宙の大規模構造を理解できたか。					
2	9	共通テスト対策演習	マーク演習					
	10							
	11							
	12							
3	1	二次対策演習	記述問題演習					
	2							

★学習到達度（自己評価）

①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④よくできた ⑤とてもよくできた

【 3年文系 地学基礎 年間学習計画 】

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月				
行事・考查	進研模試		進研模試		進研模試		進研模試		進研模試		全統模試					
	実力考查	実力考查	期末考查			実力考查	中間考查		実力考查							
テスト計画	第4編 地球の環境					第5編 宇宙の構成										
プログラム	第1章 地球環境の科学		第2章 日本の自然環境				第1章 太陽と恒星		第2章 宇宙のすがた		夏季課外	プリントによる復習	マーク演習	二次対策演習		
	1 環境と人間	2 地球環境問題	1 日本の自然環境	2 地震災害	3 火山災害	4 土砂災害	5 気象災害	1 太陽の活動	2 太陽の一生	3 恒星の明るさ	1 宇宙の構造	2 宇宙の誕生	復習	共通テスト対策演習		二次対策演習
学習内容・目標	(1) 地球大気や海洋の現象と原因について、人間の生活に及ぼす影響と関連づけて考える。 (2) 日本の自然環境や災害について学ぶ。 (3) 広大な宇宙の広がり、無数に存在する天体の性質とその探究方法について理解を深める。										使用教科書 副教材	＜教科書＞ 地学基礎（数研出版） ＜副教材＞ ニューステージ新地学図表（浜島書店） 研究ノート（博洋社） センサー（啓林館）				
											課題・提出物	訂正ノート, 休日課題など				
学習上の留意点	① 授業を大切にしましょう。重要だと思ふところはメモをとったり教科書に線を引いたりすること。 ② 復習中心の学習をしましょう。その日に習ったことはその日のうちに理解すること。質問大歓迎。 ③ 宿題は必ずやり遂げ、期限内に提出しましょう。随時、小テストも行います。 ④ 考查や模試を受けた後は、訂正を確実にいきましょう。同じミスを繰り返さないことが大切です。 ⑤ 日頃から、新聞やテレビなどの地学的な話題に関心を持ちましょう。										補習	実験・観察, 演習など				
											評価の方法	定期考查, 実力考查, 課題・提出物, 授業の様子をみて総合的に判断します。				

3年 年間学習指導計画（学習内容・到達目標）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2 単位	対象学年	3 年
【到達目標】 1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能も高める。 2) 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 3) 自己の体力向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などの意識を高め、健康安全を確保し、生涯豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。					【関心・意欲・態度】 運動の楽しさや喜びを味わい、公正、協力、責任などの態度を身につけ、健康・安全に留意し自ら運動をしているか。 【思考・判断】 課題解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫しているか。		
【学習方法・心構え】 1) 運動に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にする。 2) 各運動で、記録の向上や競争の喜びを味わい、各種目の技能を高める。 3) 運動の方法、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 4) 柔道・剣道は、相手との攻防の仕方、試合の仕方を学ぶと共に、相手を尊重し、礼儀正しく活動すること。 5) ルールを理解し、試合はもちろんのこと審判ができるレベルにまでなること。					【運動の技能】 自己の能力と運動の特性に応じて運動を行い、技能を高めているか。また、自己の体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけているか。 【知識・理解】 運動技能の構造と運動の学び方などを理解し、知識を身につけているか。		

令和5年度保健体育科年間指導計画表

学年	科目	学期	1 学期												2 学期												3 学期												合計 時間数	
		月	4			5			6			7			9				10				11				12				1			2			3			
		週数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35			
1 年	体育	3 単位	体づくり (18) 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画			選択Ⅰ (21) 陸上競技・水泳 ハードル走・クロール・平泳ぎ						体育理論 (3)	選択Ⅱ (12) 球技 ソフトボール バレーボール				陸上競技(12) 長距離走				選択Ⅱ (12) 球技 ソフトボール バレーボール				体育理論 (3)	選択Ⅲ (24) 球技・武道 バスケットボール・サッカー・柔道・剣道									105					
	保健	1 単位	1単元 現代社会と健康 2単元 安全な社会生活																																			35		
2 年	体育	3 単位	体づくり運動 (12) 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画			選択Ⅰ (27) 球技 バスケットボール・ソフトボール 卓球・ソフトテニス						体育理論 (3)	選択Ⅱ (12) 球技 ソフトボール バレーボール バドミントン				陸上競技(12) 長距離走 短距離走				選択Ⅱ (12) 球技 ソフトボール バレーボール バドミントン				体育理論 (3)	選択Ⅲ (24) 球技 バレーボール・サッカー・バドミントン									105					
	保健	1 単位	1単元 生涯を通じる健康 2単元 健康を支える環境づくり																																			35		
3 年	体育	2 単位	体づくり運動 (7) 体ほぐしの運動			選択Ⅰ (18) 球技 バスケットボール・バドミントン 卓球・ソフトテニス・ソフトボール						選択Ⅱ (7) 球技 ※1 卓球 バドミントン		陸上競技 (8) 長距離走・短距離走				選択Ⅱ (9) 球技 体育理論 (3)				※2 ソフトテニス サッカー バレーボール				体づくり運動 (15) 実生活に生かす運動の計画									70					
学校行事			入学式・始業式 新体力テスト			地区総体			県総体			文化祭			期末考査			クラスマッチ			体育祭			強歩大会			修学旅行			学年末考査			心肺蘇生法実習 卒業式			クラスマッチ・終業式				

【3年 音楽Ⅲ(文系) 学習内容・到達目標】

教科	芸術	科目	(文)音楽Ⅲ	(文)2単位	3年文系選択
【学習内容・到達目標】					
(1) 音楽の基礎的能力(新曲視唱、聴音等)を高める。 (2) 楽典を学ぶことにより、音楽の構造の理解を深める。 (3) 奏法を習熟させ、豊かな表現を目指す。					
【使用教材】					
〈教科書〉教育芸術社「Joy of Music」(文系) 〈副教材〉楽典、コールユーブンゲン、コンコーネ、歌曲集 等 〈プリント〉					
【学習方法・心構え】					
(1) 全体学習 (2) グループ学習 (3) 個人レッスン、自主練習					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容		学習方法・留意事項 (到達度チェック項目)		学習到達度 ※自己評価				
						1	2	3	4	5
I	4	歌唱	発声練習 ソルフェージュ 芸術歌曲 新曲視唱	のびのびとした声で歌うことができる。 音程・リズムを正しく歌うことができる。 言語の発音を正しく歌うことができる。 曲想を感じながら、豊かに表現できる。						
	5	聴音	リズム聴音 旋律聴音	リズムを正しくたたくことができる。 リズムを正しく聴き取ることができる。 音を正しく聴き、書き取ることができる。						
	6	演奏	楽器の演奏	ピアノを演奏することができる。 自分の得意の楽器を演奏することができる。						
	7									
	8									
II	9	歌唱	発声練習 ソルフェージュ 芸術歌曲 新曲視唱	のびのびとした声でうたうことができる。 音程・リズムを正しく歌うことができる。 言語の発音を正しく歌うことができる。 曲想を感じながら、豊かに表現できる。						
	10	聴音	リズム聴音 旋律聴音 和声聴音	リズムを正しく聴き取ることができる。 音を正しく聴き、書き取ることができる。 和音をききわけ、書き取ることができる						
	11	演奏	楽器の演奏	ピアノを演奏することができる。 自分の得意の楽器を演奏することができる。						
	12									
III	1	演奏	演奏	課題曲を正確に歌うことができる。 ピアノを演奏することができる。 自分の得意の楽器を演奏することができる。						
	2	聴音	旋律聴音 和声聴音	音を正しく聴き、書き取ることができる。 和音をききわけ、書き取ることができる						
	3									

学習到達度 ※(生徒)自己評価の例 ①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた

【3年 音楽Ⅰ(理系) 学習内容・到達目標】

教科	芸術	科目	(理) 音楽Ⅰ	(理) 1単位	3年理系選択
【学習内容・到達目標】					
(1) 視唱力を高め、歌詞・表現の工夫をし、歌う喜びを味わう。 (2) 奏法を習熟させ、豊かな表現を目指す。 (3) 多様な形態の音楽作品を味わい、豊かな感性を養う。					
【使用教材】					
〈教科書〉教育芸術社「MOUSA 1」 〈副教材〉 〈プリント〉					
【学習方法・心構え】					
(1) 全体学習 (2) グループ学習 (3) 個人レッスン、自主練習					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容		学習方法・留意事項 (到達度チェック項目)		学習到達度 ※自己評価				
						1	2	3	4	5
Ⅰ	4	歌唱	発声練習 イタリア歌曲	のびのびとした声で歌うことができる。 音程・リズムを正しく歌うことができる。 言語の発音を正しく歌うことができる。 曲想を感じながら表現することができる。						
	5	器楽	ギター コード奏法 弾き語り	正しい姿勢、フォームで弾くことができる。 コードを弾くことができる。 ストローク奏法ができる。 弾き語りができる。						
	6	鑑賞	近現代の音楽	それぞれの時代や音楽の特徴を理解する。 作曲家と作品について理解する。 作品の形式・構成を感じながら鑑賞する。						
	7									
	8									
Ⅱ	9	歌唱	発声練習 日本歌曲	のびのびとした声でうたうことができる。 音程・リズムを正しく歌うことができる。 言語の発音を正しく歌うことができる。 曲想を感じながら、豊かに表現できる						
	10	聴音	リズム聴音 旋律聴音	リズムを正しく聴き取ることができる。 音を正しく聴き、書き取ることができる。						
	11	器楽	楽器の演奏	自分の得意の楽器を演奏することができる。						
	12									
Ⅲ	1	歌唱	発声練習 愛唱歌等	のびのびとした声で歌うことができる。 音程・リズムを正しく歌うことができる。 言語の発音を正しく歌うことができる。 曲想を感じながら表現することができる。						
	2	鑑賞	日本の伝統音楽	歴史・音楽の特徴を理解する。 作曲家と作品について理解する。 作品の形式・構成を感じながら鑑賞する						
	3									

学習到達度 ※ (生徒) 自己評価の例 ①全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた

【 3 年 音 楽 年 間 学 習 計 画 】

3 年		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
		1 学 期				夏 季 休 業	2 学 期				冬 季 課 外	3 学 期	
学 校 行 事													
テ ス ト 計 画		一学期末実技					二学期末実技					学年末実技	
学 習 内 容 プ ロ グ ラ ム	文系	歌 唱	発声練習 ソルフェージュ 芸術歌曲				発声練習 ソルフェージュ 課題曲				課題曲		
		聴 音	リズム打ち 旋律聴音 和声聴音				リズム聴音 旋律聴音 和声聴音				旋律聴音 和声聴音		
	※理系は音楽 I に準ずる	演 奏	ピアノの演奏 専門の楽器の演奏				ピアノの演奏 専門の楽器の演奏				ピアノの演奏 専門の楽器の演奏		
学 習 内 容 ・ 目 標		1 音楽の基礎的能力(新曲視唱, 聴音等)を高める。 2 奏法を習熟させ, 豊かな表現を目指す。 3 さまざまな音楽について理解させ, 鑑賞の能力を高める。				使用教科書・副教材		〈教科書〉 教育芸術社「Joy of Music」 (文系) 教育芸術社「MOUSA 1」 (理系) 〈副教材〉 楽典, コールユーブンゲン コンコーネ, 歌曲集 等					
						課題・提出物等							
学 習 上 の 留 意 点 (心 構 え)		1 伸びやかな発声と視唱と外国語の正しい発音。 2 楽器の奏法を深める。 3 正しく音程を歌い, 聴き取れるように細かく練習する。				課外授業							
						評価法		1 関心・意欲・態度 (平常点) 2 音楽表現の創意工夫 (練習のプロセス・ワークシート等) 3 音楽表現の技能 (実技) 4 鑑賞の能力 (ノート等)					

【3 年音楽 3 力年学習計画】

時期		1 学期				夏季休業		2 学期				冬季休業		3 学期		
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月			
行事・考査等		一学期末実技						二学期末実技				学年末実技				
学 習 項 目 ・ 学 習 内 容	1 年		みんなで歌おう・歌曲の世界 ギター基本奏法 古代～バロックの音楽						日本歌曲・オペラの世界 アンサンブル 器楽・リズム等 古典派の音楽				愛唱歌 箏に親しむ 日本の伝統音楽			
	2 年	文系	ドイツ歌曲・日本歌曲 ギターの奏法（コードを中心に） 近現代の音楽						舞台芸術の世界 アンサンブル 器楽・リズム等				ヴァイオリンに親しむ ロマン派の音楽			
		理系														
	3 年		ソルフェージュ（新曲視唱・聴音） 楽典 歌唱指導 実技指導						ソルフェージュ（新曲視唱・聴音） 楽典 歌唱指導 実技指導				ソルフェージュ（新曲視唱・聴音） 楽典 歌唱指導 実技指導			
備考		2 年理系：課程なし。3 年文系：数学Ⅱとの選択で芸術Ⅲを履修。 3 年理系：コミュニケーション英語Ⅲとの選択で芸術Ⅰを履修。学習項目・学習内容は芸術Ⅰに準ずる。														

【3年美術Ⅲ（文系） 学習内容・到達目標】

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	2単位	3年文系選択
【目標・学習内容】 A表現領域（絵画・彫刻、デザイン）、B鑑賞領域（鑑賞）を学習する。 1 造形的な視点について理解を深め、表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようになる。 2 独自性を生かした主題の生成や構想を練り、自己の価値観を働かせ、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようになる。 3 主体的に創造的な活動に取り組み、美術を愛好する心情を育み、造形的な視点を豊かにし、感性と美意識を磨くことができる。					
【使用教材】 〈教科書〉 美術3（光村図書） 〈副教材〉 アクリル絵具、油絵具、スケッチブック 〈プリント〉 課題プリント、ワークシート					
【学習方法・心構え】 1 選択した表現形式を追求し、創造的な諸活動を行い、個性豊かな表現力を養う。 2 鑑賞においては、造形的な見方を深め、互いに批評し合う活動などを取り入れ、生活や社会の中の美術や美術文化について考える力を養う。 3 知的財産権や著作権について学ぶ。また、刃物類、塗料、器具などの安全な使い方を身につける。					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容 絵画・彫刻【絵彫】 デザイン【デ】鑑賞【鑑】 映像メディア表現【映】	学習方法・留意事項 (到達度チェック項目)	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
I	4	静物デッサン	効果的な構図を理解できる。 イメージを具体化し表現することができる。 自己の主題にあった効果的な表現方法を追究できる。 表現方法や技法を工夫・発展させ創造的な表現の構想を練りに表すことができる。 作品として完成させることができる。 自他の違いを理解し、制作を省みられる。					
		構成デッサン						
	5	平面構成						
		色彩構成						
	6	立体構成						
	7	鑑賞①【鑑】	自分の意見を整理し、表現できる。 他者の感じ方を尊重しつつ、討論できる。					
II	9	テーマ別制作【絵彫】【デ】 ※実技試験対策	自分なりの表現を追求できる。 構想を練り、作品のイメージを決定できる。 計画を立て、作品を最後まで描ききることができる。 自他の違いを理解し、制作を省みられる。					
	10	分野別に作品を制作することができる。 油彩 F15号以上)						
		木炭デッサン（木炭紙） 鉛筆デッサン（B3以上） デザイン（平面・立体） 彫刻						
	11							
	12	鑑賞②【鑑】	自分の意見を整理し、表現できる。 他者の感じ方を尊重しつつ、討論できる。					
III	1	テーマ別制作【絵彫】【デ】 ※実技試験対策 美術Ⅲのまとめ	自分なりの表現を追求できる。 構想を練り、作品のイメージを決定できる。 計画を立て、作品を最後まで描ききることができる。 自他の違いを理解し、制作を省みられる。					
	2							
	3		一年間の学習のまとめをすることができる。 自分の作品を振り返り自己評価ができる。					

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

① 全くできなかった ② できなかった ③ どちらともいえない ④ 良くできた ⑤ とても良くできた

【3年美術Ⅰ（理系） 学習内容・到達目標】

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	1単位	3年理系選択
【目標・学習内容】 A表現領域（絵画・彫刻、デザイン）、B鑑賞領域（鑑賞）を学習する。 1 造形的な視点について理解を深め、表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようになる。 2 独自性を生かした主題の生成や構想を練り、自己の価値観を働かせ、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようになる。 3 主体的に創造的な活動に取り組み、美術を愛好する心情を育み、造形的な視点を豊かにし、感性と美意識を磨くことができる。					
【使用教材】 〈教科書〉 美術1（光村図書） 〈副教材〉 アクリル絵具、油絵具、スケッチブック 〈プリント〉 課題プリント、ワークシート					
【学習方法・心構え】 1 選択した表現形式を追求し、創造的な諸活動を行い、個性豊かな表現力を養う。 2 鑑賞においては、造形的な見方を深め、互いに批評し合う活動などを取り入れ、生活や社会の中の美術や美術文化について考える力を養う。 3 知的財産権や著作権について学ぶ。また、刃物類、塗料、器具などの安全な使い方を身につける。					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容 絵画・彫刻【絵彫】 デザイン【デ】鑑賞【鑑】 映像メディア表現【映】	学習方法・留意事項 (到達度チェック項目)	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
Ⅰ	4	ロゴデザイン	イメージを具体化し表現することができる。 自己の主題にあった効果的な表現方法を追求できる。 表現方法や技法を工夫・発展させ創造的な表現の構想を練り表すことができる。 作品として完成させることができる。 自他の違いを理解し、制作を省みられる。					
	5							
	6	写真表現から アニメーションへ	イメージを具体化し、自己の主題にあった効果的な表現方法を追求できる。 作品として完成させることができる。 自他の違いを理解し、制作を省みられる					
	7	鑑賞①【鑑】	自分の意見を整理し、表現できる。 他者の感じ方を尊重しつつ、討論できる。					
Ⅱ	9	環境を彩る抽象彫刻	自分なりの表現を追求できる。					
	10							
	11	鑑賞②【鑑】	自分の意見を整理し、表現できる。 他者の感じ方を尊重しつつ、討論できる。					
	12	ポスター制作	構想を練り、作品のイメージを決定できる。 計画を立て、作品を最後まで描ききることができる。					
Ⅲ	1	ポスター制作 美術Ⅰのまとめ	構想を練り、作品のイメージを決定できる。 計画を立て、作品を最後まで描ききることができる。 自分なりの表現を追求できる。 自他の違いを理解し、制作を省みられる。 一年間の学習のまとめをすることができる。 自分の作品を振り返り自己評価ができる。					
	2							
	3							

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

② 全くできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた

【 3 年 美 術 年 間 学 習 計 画 】

3 年 美 術		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月			
		1 学 期					夏 季 休 業	2 学 期			冬 季 休 業	3 学 期				
テ ス ト 等 計 画		作品提出①	作品提出②	作品提出③	作品提出④	作品提出⑤		作品提出⑥	作品提出⑦	作品提出⑧		作品提出⑨				
学 習 内 容 プ ロ グ ラ ム	文 系 美 術 Ⅲ	静物デッサン	構成デッサン	平面構成	色彩構成	立体構成	鑑賞①		分野別制作 テーマ別制作	実技試験対策	分野別制作 テーマ別制作	・彫刻 ・立体デザイン ・平面デザイン ・鉛筆デッサン ・木炭デッサン ・油彩	鑑賞②		テーマ別制作	美術Ⅲのまとめ
	理 系 美 術 Ⅰ	ロゴデザイン			写真表現から アニメーションへ		鑑賞①		抽象彫刻	環境を彩る	抽象彫刻	環境を彩る	ポスター制作 鑑賞②		ポスター制作	美術Ⅰのまとめ
学 習 内 容 ・ 目 標		A表現領域（絵画・彫刻，デザイン），B鑑賞領域（鑑賞）を学習する。 1 造形的な視点について理解を深め，表現方法を追求し，個性を生かして創造的に表すことができるようになる。 2 独自性を生かした主題の生成や構想を練り，自己の価値観を働かせ，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようになる。 3 主体的に創造的な活動に取り組み，美術を愛好する心情を育み，造形的な視点を豊かにし，感性と美意識を磨くことができる。						使用教科書・副教材	〈教科書〉文：高校生の美術3（日文）理：高校生の美術1（日文） 〈副教材〉 課題プリント（課題説明，作成したもの） アクリル絵具，油絵具，スケッチブック、							
								課題の取り組み	授業での制作活動を基本とするため，課題作品の完成及び提出とその評価は，成績の大きな要素となる。 希望者や授業を欠席した者を対象に，著しく制作等に遅れが認められる場合、放課後等に課外を行うこともある。							
学 習 上 の 留 意 点 （ 心 構 え ）		1 選択した表現形式を追求し，創造的な諸活動を行い，個性豊かな表現力を養う。 2 鑑賞においては，造形的な見方を深め，互いに批評し合う活動などを取り入れ，生活や社会の中の美術や美術文化について考える力を養う。 3 知的財産権や著作権について学ぶ。また，刃物類，塗料，器具などの安全な使い方を身につける。						課外授業	授業の欠席者や進度の遅い生徒を対象に，必要な際に放課後を活用し行う。							
								評価法	1 関心・意欲・態度（平常点・自己評価カード） 2 芸術的な感受や表現の工夫（スケッチブック・下絵・ワークシート・制作のプロセス） 3 創造的な表現の技能（作品・自己評価カード） 4 鑑賞の能力（ワークシート・自己評価カード）							

【美術科 3 力年学習計画】

時期		1 学期				夏季休業	2 学期				冬季休業	3 学期			
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月		
行事・考査等		提出①				提出②	提出③				提出④	提出⑤			提出⑥
学習項目・学習内容	1 年		色彩論 色面構成 スケッチ	表紙デザイン スケッチブック	鑑賞①	名画の模写 油彩の魅力		名画の模写		鑑賞②	レリーフ彫刻 彫刻の魅力	レリーフ彫刻	美術Ⅰまとめ 鑑賞③		
	2 年	文系	風景画 構図・遠近法 写真表現①		鑑賞①	立体彫刻		立体彫刻		写真表現②	伝統模様構成 デザイン技法理解 鑑賞②	伝統模様構成	美術Ⅱまとめ 鑑賞③		
		理系	な し												
	3 年	文系	静物デッサン 構成デッサン 平面構成	色彩構成	立体構成	鑑賞①		分野別制作 テーマ別制作 ※実技試験対策		鑑賞②	・立体構成 ・平面・色彩構成 ・鉛筆デッサン ・木炭デッサン ・油彩	美術Ⅲのまとめ テーマ別制作			
		理系	ロゴデザイン	写真表現からアニメーションへ	鑑賞①		環境を彩る 抽象彫刻		ポスター制作 鑑賞②		美術Ⅰのまとめ ポスター制作				
備考		2 年理系は課程なし ・ 3 年文系（数学Ⅱとの選択で美術Ⅲ） ・ 3 年理系（コミュニケーション英語Ⅲとの選択で美術Ⅰ）													

【3年書道Ⅲ（文系） 学習内容・到達目標】

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	2単位	3年文系選択
【学習内容・到達目標】 (1) 漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書についての応用的な知識を深める。 (2) 表現と鑑賞の学習を通して、表現技法の習得および書美に対する理解を深める。 (3) 作品制作を通して、創造する喜びを味わい、書を愛好する心情を高める。					
【使用教材】 〈教科書〉『 書 Ⅲ 』（光村図書） 〈プリント〉 単元ごとの補助プリント、自己評価記入用紙など					
【学習方法・心構え】 (1) 理論的な内容についての学習では、教科書を中心に補助プリント等を活用し、その理解と把握に努める。 (2) 表現の学習では、自ら積極的に取り組む姿勢で臨み、表現技法の習得に努める。 (3) 鑑賞の学習では、直観的かつ分析的な観点に加え、書美の背景などにも考慮した総合的な捉え方に努める。					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項 (到達度チェック項目)	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
Ⅰ	4	1 漢字の書 古典の臨書 楷書 行書 草書 隸書 篆書	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。表現の学習では、基礎的な事項から段階的に取り組み、表現技法の習得に努める。 ・楷書、行書、草書、隸書、篆書の基本的な事項を理解し、その特徴がうまく表現できたか					
	5	漢字の創作 楷書、行書、草書、 隸書、篆書の各書体 による創作	表現の学習では、基礎的な事項から段階的に取り組み、表現技法の習得に努める。 ・創作の基本的な事項が理解できたか ・四字語の創作がうまくできたか					
	6							
	7	鑑賞（小論文①）	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。					
Ⅱ	9	2 仮名の書 古典の臨書	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。表現の学習では、基礎的な事項から段階的に取り組み、表現技法の習得に努める。 ・基本的な事項が理解できたか					
	10	仮名の創作	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。表現の学習では、基礎的な事項から段階的に取り組み、表現技法の習得に努める。 ・創作の基本的な事項が理解できたか ・俳句や短歌の創作がうまくできたか					
		鑑賞（小論文②）	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。					
	11	3 漢字仮名交じり書 表現の工夫	教科書及び補助プリントを活用しながら、様々な表現の仕方についての理解とその表現技法の習得に努め、これを生かした作品制作に取り組む。 ・用具・用材の工夫の仕方が理解できたか ・構成の工夫の仕方が理解できたか ・さまざまな表現を工夫して漢字仮名交じりの書の創作がうまくできたか					
	12	4 書論（小論文③）	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。					
Ⅲ	1	実技試験対策	これまでの学習を総合的に活かし、教科書や補助プリント、字書等を活用しながら、選文、草稿作成、表現の意図の考察、表現の工夫などを行う。 ・表現意図に合う表現ができたか。					
	2							
	3							

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

① まったくできなかった ② できなかった ③ どちらともいえない ④ 良くできた ⑤ とても良くできた

【3年書道Ⅰ（理系） 学習内容・到達目標】

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	1単位	3年理系選択
【学習内容・到達目標】 (1) 漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書についての応用的な知識を深める。 (2) 表現と鑑賞の学習を通して、表現技法の習得および書美に対する理解を深める。 (3) 作品制作を通して、創造する喜びを味わい、書を愛好する心情を高める。					
【使用教材】 〈教科書〉『 書 Ⅰ 』（光村図書） 〈プリント〉 単元ごとの補助プリント、自己評価記入用紙など					
【学習方法・心構え】 (1) 理論的な内容についての学習では、教科書を中心に補助プリント等を活用し、その理解と把握に努める。 (2) 表現の学習では、自ら積極的に取り組む姿勢で臨み、表現技法の習得に努める。 (3) 鑑賞の学習では、直観的かつ分析的な観点に加え、書美の背景などにも考慮した総合的な捉え方に努める。					

授業・学習計画

学期・月		授業・学習内容	学習方法・留意事項 (到達度チェック項目)	学習到達度 ※自己評価				
				1	2	3	4	5
Ⅰ	4	1 漢字の書 古典の臨書 楷書 行書 草書 隸書 篆書	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。表現の学習では、基礎的な事項から段階的に取り組み、Ⅰ年次とは異なる古典の表現技法の習得に努める。 ・楷書、行書、草書、隸書、篆書の基本的な事項を理解し、その特徴がうまく表現できたか					
	5	漢字の創作 楷書、行書、草書、 隸書、篆書の各書体 による創作	表現の学習では、基礎的な事項から段階的に取り組み、表現技法の習得に努める。 ・創作の基本的な事項が理解できたか。 ・四字語の創作がうまくできたか。					
	6							
	7	鑑賞	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。					
Ⅱ	9	2 仮名の書 古典の臨書	理論的な内容の学習では、教科書及び補助プリントを活用しながら理解を深める。表現の学習では、基礎的な事項から段階的に取り組み、Ⅰ年次とは異なる古筆の表現技法の習得に努める。 ・基本的な事項が理解できたか					
	10	3 刻字 選文 原稿 彫る 着色 鑑賞	これまでの学習を総合的に生かし、教科書や制作過程のプリント、字典等を活用しながら行う。 文字を素材とすることで、書の分野であることを理解する。 ・選文から着色まで自分のイメージするものに近づけることができたか。					
	11	生活の中の書	教科書、補助プリントを活用しながら、伝えるべき「相手」のある書であることを理解する。 ・文字の大きさや配置が理解できたか。					
	1 2	仮巻き作品の制作準備	語句選び					
Ⅲ	1	仮巻き作品制作・表具	様々な表現の仕方について理解し、これまで学習してきた古典を生かした作品制作に取り組む。					
	2							
	3							

学習到達度 ※（生徒）自己評価の例

① まったくできなかった ②できなかった ③どちらともいえない ④良くできた ⑤とても良くできた

【 3年書道 年間学習計画】

3 年 書 道		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
		1 学 期					夏 季 休 業	2 学 期				冬 季 休 業	3 学 期
学 校 行 事													
テ ス ト 計 画		作品提出						作品提出					
学 習 内 容 プ ロ グ ラ ム	文 系	1 漢字の書 ・ 古典の臨書			・ 漢字の創作	鑑賞		2 仮名の書 ・ 臨書	・ 創作	・ 鑑賞	3 漢字仮名 交じりの書 ・ 表現の工夫	4 書論	実技対策
	理 系	1 漢字の書 ・ 古典の臨書			・ 漢字の創作	鑑賞		2 仮名の書 ・ 古典の臨書	3 刻字 ・ 鑑賞		4 生活の中の書	5 仮巻き作品の 制作	表具
学 習 内 容 ・ 目 標		1 漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書等についての応用的な知識をさらに深める。 2 表現と鑑賞の学習を通して、表現技法の習得や書美に対する理解をさらに深める。 3 作品制作を通して、創造する喜びを味わい、書を愛好する心情を身につける。					使用教科書・副教材		文系 教科書：『 書 III 』（光村図書） 理系 教科書：『 書 I 』（光村図書）				
							課題の取り組み		課題作品の提出とその評価は、成績の大きな要素である。 欠席等の理由によって作品が提出できなかった生徒は、放課後等の時間を活用して課題制作を行い、作品を提出する。				
学 習 上 の 留 意 点 (心 構 え)		1 理論的な内容についての学習では、教科書を中心にプリント等を活用し、その理解と把握に努める。 2 表現の学習では、自ら積極的に取り組む姿勢で臨み、表現技法の習得に努める。 3 鑑賞の学習では、直感的かつ分析的な観点に加え、書美の背景にも考慮した総合的な捉え方に努める。					課外授業		放課後、授業の欠席者等を対象に、必要な場合行う。				
							評価法		提出作品を中心に、感想・自己評価記入用紙、まとめプリント、制作中の取り組みなどを加味しながら、総合的に評価する。				

--	--	--	--

【書道科 3 力年學習計畫】

時 期		1 学期				夏季休業	2 学期				冬季休業	3 学期		
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	
行事・考査等		提出提出提出					提出提出提出				提出提出			
学習項目・学習内容	1 年 (選択必修)	・篆書・篆刻 ・楷書の古典 ・楷書の基本 ・漢字の変遷 ・さまざまな書体 2 漢字の書 1 書の基本事項					・行書の古典 ・行書の基本 ・漢字仮名交じりの書(硬筆) ・漢字仮名交じり ・隷書の古典 ・隷書の基本				3 仮名の書 ・平仮名 ・仮名の基本 4 漢字仮名交じりの書			
	2 年 文系 (選択必修)	・草書 ・隷書 ・篆書 1 漢字の書					・行書 ・漢字仮名交じりの書(硬筆) 2 刻字 彫る・着色 選文・原稿 3 仮名の書				・表具の書 ・漢字仮名交じり ・漢字の書 4 創作作品の制作 3 仮名の書			
	理系													
	3 年 文系 (選択)	・鑑賞 ・漢字の創作 ・古典の臨書 1 漢字の書 鑑賞					2 仮名の書 ・鑑賞 ・臨書・創作 3 漢字仮名交じりの書(硬筆) 4 書論				実技試験対策			
	3 年 理系 (選択)	・鑑賞 ・漢字の創作 ・古典の臨書 1 漢字の書 鑑賞					2 仮名の書 ・鑑賞 ・臨書 3 刻字 4 仮巻き作品の制作 4 生活の中の書 5 生活の中の書				・表具			
備 考		2 年生の理系は芸術選択なし。3 年生文系（芸術Ⅲ），理系（芸術Ⅰ）												

【3年英語科 コミュニケーション英語Ⅲ 学習内容・到達目標】

学習方法・心構え	(1) 限られた時間の中で最大限の効果を上げるために情報収集能力を高める Step 1 : 辞書なしで全体を読み、大意を把握 (未知の語 (句) は文脈から推測すること) → Step 2 : 単語・熟語の意味を授業で確認 (発音・アクセント) ※意味だけでなく、音声面も必ずチェックすること → Step 3 : 各英文の正確な意味の把握 ※訳のとれない箇所をチェック → Step 4 : 精読・音読 ※いずれのStepにおいても、自分で考える習慣を身につけることが重要。
	<Reading力を身につけるための学習方法> ※ 英文を正確に早く読むためには、語彙力の強化および文法に基づいた文構造把握力の強化が重要である。一文一文の正確な読み方を授業で確認する。 ※ 和訳から考えたり、日本語としてこなれた訳を追求しすぎたりするのではなく、まずは、文構造や段落構成に着目し、内容把握に重点を置く。(本文要約の訓練も日頃よりしておくが良い) ※ 論理展開を示す語句や段落構成に注意し、Key Sentenceを意識しながら論述の展開を確認する。 ※ 代名詞などの指示語にも留意して、曖昧な部分のないより深い読解を心がける。 ※ 既習の教材でかまわないので、日頃より5～10分程度の時間を設定し、制限時間内に読む訓練もしておく。
	(2) 授業は予習を前提に進める。板書・授業中の説明を細かくチェック。
	(3) 授業の復習はもちろん重要。小テストにも真剣に取り組み、疑問点はその日のうちに解決すること。 ※ 定期考査・実力考査のみならず、対外模試の復習も確実に (テストでは既習事項の最重要部分が出題されている。)
3年生の英語の授業はコミュニケーション英語Ⅲ/英語表現Ⅱに関わらず、1・2年次の復習も含め1学期でおおよそ終わる。2学期以降は、9・10月は記述中心の演習、11月以降は共通テスト対策としてマーク演習が中心になる。2学期以降の演習へのスムーズな移行を考えるならば、基礎・基本の確認お昼くとも夏季休業中までに終わっておく必要がある。1学期が勝負である。学習方法等について疑問がある場合は、早めに各教科担任に相談すること。	

コミュニケーション英語Ⅲ							
月	学 習 事 項	学習内容・学習目標など	評 価				
4	CROWN English Communication III Lesson 1 (予定)	基礎・基本の総仕上げ（定着期） ↓ ☆ 基本事項を確実に覚え込む 語彙力を強化する / 「LEAP」の活用 文構造把握力を強化する 基本文法・語法の完全理解 「英作基本文例 600」の理解と活用 ↓ ①長文読解の基礎学力を固める ②発展的な読解力につながる長文読解の基礎学力を伸ばす	自己評価 12345	意 欲	理 解	異 理	
	○			○	○		
5	CROWN English Communication III Lesson2・3 (予定)		○	○	○		
6	CROWN English Communication III Lesson 4 (予定)		○	○	○		
7	CROWN English Communication III Lesson 5 (予定)		○	○	○		
9	長文読解演習標準： 標準・発展レベル 問題集（予定）	基礎・基本の再確認（充実期） ↓ ☆ 問題演習を数多くこなす 中級の長文問題集 共通テスト過去問題演習 志望校過去問題演習 ↓ ①やや難解な長文読解にも耐えうる発展的読解力の基礎を固める ②難解な長文読解にも耐えうる発展的読解力を育成する ③共通テストの傾向を知り、既習事項を確認し、速読力をつける ④共通テストの傾向に慣れ、適切な時間配分で解けるようになる		○	○	○	
10			○	○	○		
11	共通テスト対策			○	○		
12			○	○			
1	共通テスト対策 国公立二次試験対策 私立対策	マーク演習総仕上げ 国公立二次試験対策及び私立大対策（過去問演習） 難解な長文の概要把握・日本語訳・概要要約に対応できる読解力を育成する。 既習の文法事項や構文を再確認する。		○	○	○	
2			○	○	○		

【3年英語科 英語表現Ⅱ 学習内容・到達目標】

学習方法・心構え	(1) 限られた時間の中で最大限の効果を上げるために、予習を徹底する。予習で英語力の大半は身に付く。 <Writing力を身につけるための具体的学習方法> ※ 基本文例600や、基本構文のポイントを理解した上で覚える。 ※ 覚えた英文・文型を利用して、新しい英文を作る。 ※ 既習の構文や熟語・語彙の理解を確認しながら、与えられた日本語を複数の表現を用いて書くように努める。 ※ 与えられた日本語を英文に書き換えるとき、日本語の内容をしっかり把握した上で、どういう表現で言い換えるのかを常に考え、授業では、自分の気づかなかった言い換えの方法を確認していく。難解な日本語も、発想を転換して平易な日本語に言い換えてから易しい英語で表現するよう努力する。 ※ 日頃から語彙を増やす努力をする。 ※ 身の回りの出来事や、「文化常識を養おう」等の内容、社会問題に関して、日頃から自分なりの意見を持つようにしておく。(what to writeを蓄えておく)
	(2) 授業は予習を前提に進める。※授業は「予習の確認の場」である。板書・授業中の説明を細かくチェック。
	(3) 授業の復習はもちろん重要。小テストにも真剣に取り組み、疑問点はその日のうちに解決すること。 ※ 定期考査・実力考査のみならず、対外模試の復習も確実に。(テストでは既習事項の最重要部分が出題されている。)

3年生の英語の授業はコミュニケーション英語Ⅲ/英語表現Ⅱに関わらず、1・2年次の復習も含め1学期でほぼ終わり、2学期以降は、9・10月は記述中心の演習、11月以降は共通テスト対策としてマーク演習が中心になる。上記の方法でWritingの学習に取り組むことで、大学入試に対応できるレベルの英作文力のみならず、文法力も身につけられるはずである。英作文力には、その人の英語力が如実に表れ、また、高校卒業後も必要な能力なので、予習から真剣に取り組むこと。また、2学期以降の演習へのスムーズな移行を考えるならば、基礎・基本の確認は遅くとも夏季休業中までに終えておく必要がある。1学期が勝負である。学習方法等について疑問がある場合は、早めに各教科担任に相談すること。

英 語 表 現 Ⅱ							
月	学 習 事 項	学習内容・学習目標など		評 価			
4 ・ 5	be English Expression II	2 年次に学んだことに加えて、場面や目的に応じて自分が伝えたいことをどのような表現で伝えるかを学習し英文を書く。		自己評価 12345	意 欲	表 現	異 理
		○	○		○		
6	Section 7 ～ パラグラフライティング (Lesson 19～)	・まとまった内容の英文を書く力を段階的に養う。 ・既習の文法事項や構文を用いて語句整序や空所補充などの演習を通して、様々な話題・題材についての表現力の基礎を固める。			○	○	○
7	英作文問題集 (基礎・標準レベル)	・意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章で書いて伝える力を養う。 ・語句整序や空所補充などの演習を通して、表現力の基礎を強化する。自己表現に有益なイディオムや構文を使える力を育成する。			○	○	○
9	英作文問題集 (標準・発展レベル)	(和文英訳中心) 上記文法項目についての理解を確認・深化し、短文レベルの英文での表現演習	既習の文法事項や構文を用いて短文レベルの英語表現ができるようになる。 同内容でも様々な表現を用いて英文が書けるようになる。		○	○	○
1 0		(和文英訳・自己表現中心) あるテーマについての自分の意見や立場など自己を表現する問題演習	賛成・反対の立場を述べる表現や具体例の提示・意見の追加補足をする表現など、自己の考えや意見を明確に表現できる力を身につける。		○	○	○
1 1	共通テスト対策Ⅰ	共通テスト問題演習	共通テストの傾向を知り、既習の文法事項や構文を再確認しながら、問題対応力を身につける。		○	○	
1 2	共通テスト対策Ⅱ	共通テスト予想問題 (40分版、80分版)の演習	共通テストの内容や傾向に慣れ、適切な時間配分の中で問題を解決する力を身につける。		○	○	
1	マーク演習 国公立2次対策 私立対策	マーク演習総仕上げ (国公立大2次試験対策)	やや難解な日本語を英訳できる作文力を身につける。 あるテーマについての自分の立場や意見を表現できる力を育成する。		○	○	○
2		国公立2次試験対策 及び私立大マーク対策 (過去問演習)	段落構成を意識しながら自己表現ができる力を育成する。		○	○	○